

ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2019

シーニックバイウェイ北海道 推進協議会

令和2年11月13日



ベストシーニックバイウエイズプロジェクト2019



Scenic Byway HOKKAIDO

平成20年度よりシーニックバイウエイ北海道の推進に向けて、他の模範となるルート活動であり、将来への発展性が高く評価できる取り組みを選出し表彰する「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト」の取り組みを実施。

ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2018
 どうなん道の駅連携事業
 (どうなん・追分シーニックバイウエイルート)



ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2017
 ～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～
 ビューポイントパーキングの景観改善 (電線移設)
 (支笏洞爺ニセコルート)



ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2016
 いにしえ街道の景観を活かした街づくり
 (どうなん・追分シーニックバイウエイルート)



ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2015
 そらの森の植樹活動～地域で育てる森プロジェクト～
 (釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ)



ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2014
 「ライフコンシェルジュ (ご当地風土アドバイザー)
 育成事業」 (トカプチ雄大空間)



ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2013
 「タカラモノプロジェクト」 (支笏洞爺ニセコルート)



<表彰>

- 活動団体賞 1 件（指定・候補ルートを対象） 【エントリー数 16件】
- 部門賞 3 件（指定ルートを対象）

<エントリー部門>

- 美しい景観づくり賞 【エントリー数 4件】
- 活力ある地域づくり賞 【エントリー数 4件】
- 魅力ある観光空間づくり賞 【エントリー数 5件】

※部門賞は、部門毎に 1 件とし最大 3 件とするが、評価の結果によってはこの限りではない。

- 最優秀賞「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2019」1 件（指定ルートを対象）
部門賞の中から 1 件選出

<評価の視点>

地域の資源を発見・活用し、有形・無形の「新しい価値」を生み出しているか否かに評価の軸を置くと共に、以下の点に留意し、プロジェクトの評価を行う。

－部門賞及び大賞－

- 持続性（取組の継続性の程度を評価）
- 浸透性（地域内への広がり程度を評価）
- 拡張性（モデルケースとしての地域外へ展開の程度を評価）
- 連携性（地域同士や他団体との連携の程度を評価）
- 先進性（新しいものに取り組んでいく姿勢の程度を評価）
- 効果性（定量的・定性的な効果の程度を評価）
- 人材育成

▼各賞決定までの流れ

募集開始



各ルートから活動の応募



■ 活動団体賞

各ルートによる投票

- ※対象：指定及び候補ルート
- ※自ルート以外に、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを活動団体賞として選出



■ 部門賞、最優秀賞

ルート審査委員会にて審査

- ※対象：指定ルート
- ※ルート審査委員が、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを部門賞候補として選出
- ※選出された部門賞候補から最優秀賞を選出



推進協議会にて活動団体賞、部門賞及び最優秀賞を決定

活動団体賞候補〔エントリー16件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

NO	ルート名称	活動名称	点数	主なコメント
①	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックデッキの設置	9	マルシェの実施により、ルート内でのシーニックの認知度向上につながった事。
②	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	清掃活動から始める連携の輪～活動継続と戦略的展開～	18	いろいろな団体が参加して参加する団体が広がっているところが素晴らしい。
③	函館・大沼・噴火湾ルート	～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取組み～ 函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」	9	平成16年から継続的に実施され、地域・民間企業・道路管理者等で十分に連携が取れており地域の愛着醸成に貢献している。
④	札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート	地域住民と道路管理者の地域協働による 板割拡幅記念植樹区間景観保全活動	27 ◎	実施前後の美観の変化が一目瞭然。継続した活動により、景観が劇的に向上しているのが素晴らしい。また、子どもも参加する活動を評価する。植樹区間への着眼点も珍しい。活動による美観効果が高いことも評価する。
⑤	支笏洞爺ニセコルート	～羊蹄山ビューポイントの眺望を守り・活かす環境保全活動～ 「みらいの森」育樹プロジェクト	10	道有林をビューポイントとして、周辺環境の整備・地域の人材育成につなげている。
⑥	東オホーツクシーニックバイウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー	1	アンケートから、今まで知らなかった地域情報を得ることができた事。
⑦	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	道の駅と連携した情報提供の実施	10	道の駅と地域が連携し、互いの魅力アップにつながっている点を評価。
⑧	層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックマルシェの開催	0	-
⑨	空知シーニックバイウェイ-体感未来道-	～これからの空知を考える～地域創生フォーラム	6	空知は若手が頑張っていると感じる。このフォーラムはその熱意を感じる。ぜひこれからも頑張ってください。
⑩	知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイ	地域情報発信・ドライブマップの作成	4	ドライブコースを6種類設定し、初めて地域を訪れる人にも自分の興味のある分野を巡るコースをたどる事が出来、より身近に地域の魅力を感じる事が出来る。
⑪	天塩川シーニックバイウェイ/宗谷シーニックバイウェイ	きた北海道エコ・モビリティの推進R3プロモーション動画の作成	20	道・川・鉄道による移動とコンセプトを絞り、かつターゲットを明確にして取り組み、地域課題を逆手にとって、プラスの要素としているのが素晴らしい。動画で活動内容をイメージしやすいものになっている。
⑫	萌える天北オロロンルート	インフラを活用した新しいツーリズムの創出	17	萌え天のインフラツーリズムは、これまでにない新しい取り組みである。これからも継続して行って欲しい。
⑬	十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	写真を活用した地域の魅力発信事業	5	地域住民が地元の魅力を再確認し、地域への愛情や誇りを増進できた事。SNSを利用したことにより、より気軽に応募してもらえるようになった事。
⑭	十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間	情報ボックス(BOX)事業	7	事業者間で相互にPRを行うことで、旅行者の周遊を誘発するとともに、相互理解にも繋がると思われる。
⑮	どうなん・追分シーニックバイウェイルート	どうなんサイクルツーリズム推進事業	6	活動団体それぞれの強みを生かした事業となっている。
⑯	空知シーニックバイウェイ-体感未来道-	“道の駅”からはじまる“空知サイクルツーリズム”	11	日本一の直線道路といった他のルートには絶対にはない資源を活用している点を評価する。

活動名称 地域住民と道路管理者の地域協働による板割拡幅記念植樹区間景観保全活動 エントリー部門 美しい景観づくり

ルート名称 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

平成15年に板割沢拡幅事業の記念植樹が行われた。しかし、時間の経過とともに、樹木が成長し景観を阻害する状態になっていた。平成28年に小金湯さくらの森がオープンしたことを契機に、記念植樹区間の道路空間改善について検討を開始。その結果、平成28年度から、地域住民と道路管理者が協働で草刈りや樹木伐採、ゴミ拾いを実施する道路景観保全活動が始まった。この活動は、平成28年度から始まり、令和元年度まで毎年秋に継続して実施されている。

●活動内容：

- ・板割拡幅記念植樹区間での景観保全活動（草刈り、樹木伐採等）
- ・みすまい児童会館の子ども達もゴミ拾いや手作りの樹木板を設置するなど景観保全活動と一緒に参加している

●活動期間：平成28（2016）年度～令和元（2019）年度

- ・実施場所：板割拡幅記念植樹環境整備区間（L=0.3km）

②活動の体制



③PRポイント

【総意工夫した点】

- ・地域住民と道路管理者が連携し合い、維持管理活動を実施した点

【活動による効果】

- ・活動を継続していくうちに、沿道景観の美観が向上し、それに伴い、地域住民の地域への誇りと愛着が高まった
- ・地域住民の景観保全のノウハウの蓄積と景観保全への意識向上
- ・景観の向上により、ドライバーがゆっくり走行し安全性が向上
- ・子ども達への環境教育の場の提供 ・熊出没頻度の減少



樹木伐採している様子



作業車で伐採木を回収



作業終了後の集合写真

活動実施場所



児童館の子供達が制作した樹木板

【2016年：実施前】

エゾエノキ周辺に樹木が茂り背後の風景が見えない

↓ 4年間継続して景観保全活動を実施

【2019年：実施後】

3年をかけ、植樹当時の添木を全撤去し、美しい道路景観を創出

部門賞 美しい景観づくり部門候補〔エントリー 4件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	シーニックデッキの設置 【東オホーツクシーニックバイウェイ】	7	<ul style="list-style-type: none"> ・持続性を評価したい。観光のあり様が大きく変わろうとしているとき、デッキ活用の内容・情報発信など、V2の展望を期待したい。 ・シーニックデッキとマルシェの連携。設置や移動はご苦労様です。 ・「シーニックデッキ」と「マルシェ」、SBWのスタンダードなコア活動としてこのルートも事業内容に取り入れるようになることを目指し、さらなるブラッシュアップと進化を！
2	清掃活動から始める連携の輪 ～活動継続と戦略的展開～ 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】	12	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の連携を評価したい。戦略性や次への展開も期待が大きい。 ・継続に向けてのモチベーション維持のための工夫と努力は参考になる。 ・「おもてなし」、「環境美化」、「メンバー連携」、「新分野への拡張」、SBWの重要な概念が凝縮されたこの活動は今後も連携・浸透・拡張しつつ進化させながら継続して行ってほしい。学校教育の一環で旅育ともなるのでその分野へのアプローチ強化を！ ・包括連携企業の北海道コカ・コーポリングや、環境省、林野庁、未参加だった行政連絡会議の自治体メンバーも参加するなど、新たな活動メンバーの加入、サイクルツーリズムと絡めて、ルートに新しい風を吹き込んだことを評価する。
3	～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取組み～ 函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」 【函館・大沼・噴火湾ルート】	20	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の持続性と地域・住民・企業・来訪者との共感性の高い活動として評価したい。 ・多くの市民、企業等の協力者を集め、二世世代にわたる長年の活動を着実に実行しており、その実績は評価に値する。 ・圧倒的なボリュームと大人数の参加が素晴らしい。地域コミュニティへの浸透と二世世代にわたる参加もたゆまぬ努力の表れ。 ・ルートとしてのすべての活動の原点となるもので、北前船の高田屋嘉兵衛の足跡のごとく他のルート・観光地のリーダー役として継続・進化を！ ・10年を越える継続的な活動を評価。出資企業の増加など、活動が拡大していること、活動参加者の継承は、モデルとなる取組である。
4	地域住民と道路管理者の地域協働による 板割拡幅記念植樹区間景観保全活動 【札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート】	11	<ul style="list-style-type: none"> ・地元メンバーによる自主的な沿道管理のスタートを切ったことを評価したい。 ・地域住民、道路管理者が連携して、3年という活動期間の中で、景観改善や、意識の向上等大きな成果をあげている。 ・子供を巻き込んだ楽しそうな作業が魅力的。 ・「道路管理者との連携」、これも重要なSBWの柱であり、これを端緒に他ルートの範となるよう継続的・拡張的な取組みを！

活動名称

～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取り組み～
函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」

エントリー部門

美しい景観づくり

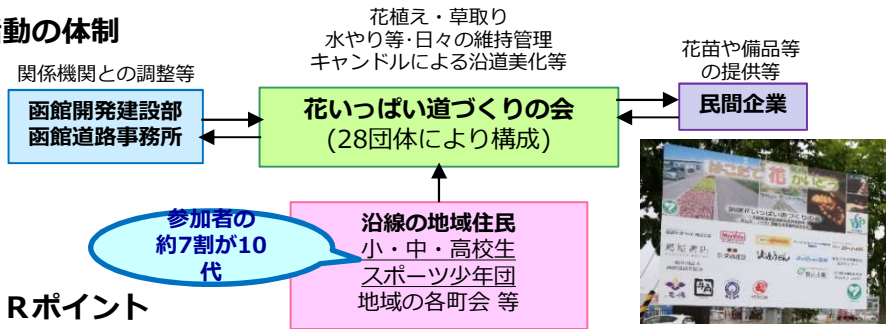
ルート名称

函館・大沼・噴火湾ルート

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標：
 - ・道ゆくドライバーや函館を訪れた国内外の観光客の方々に「綺麗なお花」を見て、旅の疲れを癒し、喜んでほしいというおもてなしの取組み。
 - ・加えて、道路管理者及び沿道の民間企業等とも連携し、綺麗な道の維持管理活動等を通じて、**ボランティアの相互協力関係の構築**を目的とする。
- 活動内容：①植樹木の土起こし(毎年、5月下旬)
②植樹木への植栽(毎年6月の第2土曜日)
③植樹木の草取り・水やり(毎月第2土曜日 ※月1～2回)
④花の撤去活動(毎年10月の第4日曜日)
⑤ワックスキャンドル製作体験会(毎年12月～1月下旬)
⑥道路沿道へのキャンドル設置・点灯(毎年2月上旬)
- 活動期間：平成16～令和元年度 ※継続展開中
・実施場所：国道5号 函館新道インターチェンジ付近の植樹木

②活動の体制



③PRポイント

- 【総意工夫した点や苦労した点】
- ・函館の玄関口でもあり地域としても大切な場所である函館新道の価値を高めるべく、**10年を越えて継続的に国道沿道の維持管理活動を実施。**
 - ・**地域・民間企業・道路管理者等の連携体制が十分に図られている。**
 - ・**事務局が個別に小中高校を訪問、熱意を伝え、多くの参加に繋がった。**
 - ・**協力企業等を掲載した統一看板**を設置により協力体制の見える化が図られ、**出資企業が増加し、企業のイメージアップと資金収集に繋がった。**

【活動による効果】

- ・夏期(5～10月)だけではなく、冬期(2月)は函館新道沿線をキャンドルで彩る「シーニックdeナイト」にも発展し、**年間を通じた沿線の美化活動に貢献。**
- ・**活動参加者の継承**(中学生が親世代となり親子二代で参加)と**地域愛着の醸成。**
- ・**民間企業**(スーパー、大型量販店等)との**連携体制の強化。**

<夏期沿道活動「花いっぱい活動」植栽及び維持管理活動>

植樹木の土起こし(5月下旬)⇒植栽(6月上旬)⇒草取り・水やり等(毎月第2土曜日)を10月下旬まで継続的に実施。花植えには、平均800名、毎月の維持管理には、100名程度が参加する。



<冬期沿道活動「シーニックdeナイト」～ワックスキャンドルで灯りと心をつなぐ～>

ワックスキャンドル製作体験会(12月～1月下旬)⇒キャンドル設置・点灯(2月上旬)を実施。ワックスキャンドル製作体験会は12箇所で開催(函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・八雲町)。キャンドル設置・点灯には、毎年、約400名程度が参加する。



“一年を通じた函館新道での活動”を通じて、**地域への愛着醸成**や**参加者間の交流促進**に大きく寄与している。

部門賞 活力ある地域づくり部門候補〔エントリー 4件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	～羊蹄山ビューポイントの眺望を守り・活かす環境保全活動～ 「みらいの森」育樹プロジェクト【支笏洞爺ニセコルート】	20	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境への視点とその継続性を評価。SDGsと結び付けた活動としての展開も期待。 ・高校の研修旅行，民間企業の研修活動とタイアップして，育樹活動の推進，交流機会拡大等大きな成果をあげている。 ・森の育成も評価できるがそれ以上にみんなで場を活用する、楽しむ、森と皆の努力を愛でるといった雰囲気が素晴らしい。 ・SBWのシンボリックな活動例としてあらゆる組織・機能を巻き込んだ長期的、継続的かつサステナブルな活動であり、内外の賛同者、協力者の拡大が期待される！ ・SDGsの取組としては数あるシーニックの活動の中でも特筆すべきものと評価する。育樹活動を通じて「森」をつくるというコンセプトは北海道ならではの取組であり、全国の活動へのモデルとなる取組と考える。
2	ルート内道の駅スタンプラリー 【東オホーツクシーニックバイウェイ】	6	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロツーリズムと結び付けた基礎的な活動を評価。次への展開が期待できる。 ・スタンプラリーに留まることなく、より深い連携が道の駅との間に公くできればよかった。 ・「道の駅」を活用した取組も、SBWとして重要かつ喫緊のテーマであるが、それに包括連携機能を絡ませた新たな取組で、今後、他ルートへの浸透・拡張が期待される！
3	道の駅と連携した情報提供の実施 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】	18	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅との連携を評価。地域の新観光資源(人材も)の丹念な発掘と発信を期待。 ・道の駅と連携した情報提供について、毎年着実に改善に取り組んでいる。 ・第3ステージでは道の駅とSBとの連携もうたわわれているが、そのモデルともなりうる先駆的取組であり、連携の継続性も評価できる。 ・「道の駅との連携」の取組の典型的なケースであるが、効果測定も視野に入れた活動となっており、今後、さらなる進化が期待される！ ・「道の駅」とシーニック、また地域との連携を具体的に取組、成果（拡大）をあげてきている点を評価する。言葉で「連携」というのは簡単だが、関係者全員にメリットがないと進まないのが現状であり、一步一步積み上げて、良好な関係作りを築き上げている点を評価する。
4	シーニックマルシェの開催 【層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ】	6	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を丹念に発見・発信しようとする姿勢を評価。SNS活用や通年化も期待。 ・ルートの中心的取組として、長期に亘って進められ、シーニックバイウェイ制度、層雲峡ルートの知名度向上に貢献している。 ・マルシェを3か所で開催したことを評価。ただ、反省や効果などが定性的でよいので分析され、今後につながることを期待したい。 ・「マルシェ」の先進ルートである「東オホーツク」との連携やパラサイト的な特産品販売にとどまらず、一工夫二工夫した進化系の活動が望まれる

活動名称 ~羊蹄山ビューポイントの眺望を守り・活かす環境保全活動~ 「みらいの森」育樹プロジェクト

エントリー部門 活力ある地域づくり

ルート名称 支笏洞爺ニセコルート

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標：

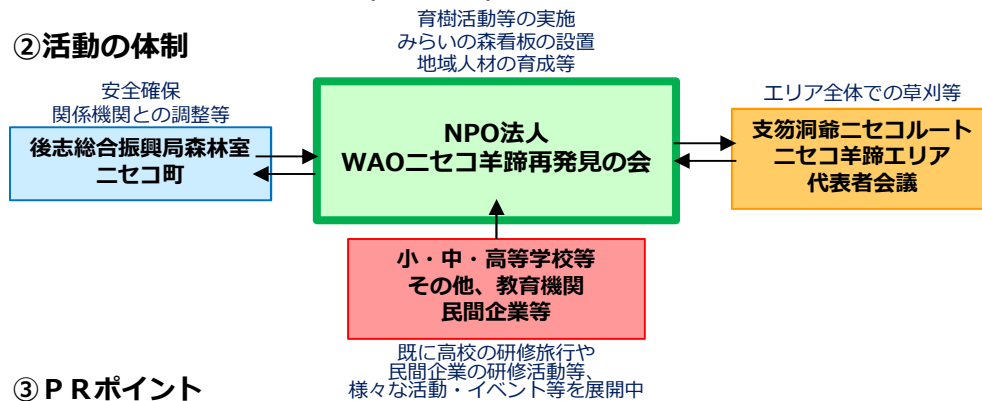
羊蹄山のビューポイントとして、2018年9月29日(土)に「北海道150年記念 みらいの森育樹会」に合わせて活動を開始した「みらいの森(ニセコ町)」。

シーニックバイウエイビューポイント看板も新設し、今後は、シーニックの森としての登録を目指して、さらなる森林の保全・活用を進めていく。
- 活動内容：
 - ①シーニックビューポイントとしての**周辺環境の整備**(育樹活動・ウッドチップ敷設・デッキ設置等)
 - ②同じく、シーニックビューポイントとしての各種活動時の**利活用**(集客イベント等での利用)
 - ③小・中・高等学校等とした**育樹活動の実施**(修学旅行・研修旅行等)
 - ④地元住民や地域活動団体を対象とした育樹会等を通じた**地域の人材育成**
- 活動期間：平成30年度～令和2年度(※継続展開中)
 - ・実施場所：みらいの森(ニセコ町)



2018年9月に設置したビューポイント案内看板

②活動の体制



「みらいの森 育樹会」(2018年9月29日)



「日本風景街道大学 ニセコ羊蹄キャンパス エクスカーション」(2019年9月21日)

③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・北海道の育苗事業の役割を終えた**道有林をビューポイントとして活用**
- ・道有林の**森林ボランティア活動**等に対する積極的な**フィールド提供**
- ・各種**シーニック地域活動での活用**により「**みらいの森**」PRに繋がっている
- ・教育機関や民間企業等、幅広く多くの方に**活動に参加してもらう気運醸成**

【活動による効果】

- ・地域住民と来訪者による育樹活動による森林面積の拡大【環境保全効果】
- ・地域住民と来訪者による交流機会の増加【外向きの効果】
- ・来訪者に対するビューポイント提供に対する高評価【 " 】
- ・地域資源および地域人材の活性化【内向きの効果】



地域活動団体や教育機関との連携による「みらいの森 育樹活動」※継続的に展開中

部門賞 魅力ある観光空間づくり部門候補〔エントリー 5件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	きた北海道エコ・モビリティの推進 R 3 プロモーション動画の作成 【天塩川シーニックバイウェイ／宗谷シーニックバイウェイ】	17	<ul style="list-style-type: none"> ・地域インフラを重層化させつつ、新たな観光の在り方へチャレンジを高く評価したい。 ・2つのルート、3つのRを融合した優れたプロモーション。今後はこれを実際のツアー造成や需要掘り起こしに活用していただきたい。成果を期待したい。 ・世の中に広く訴求させたい地域の魅力とターゲットを明確にして、現在最もトレンドな「動画」という先進的なメディアで周知させ他の地域と連携で行うというチャレンジングな取組である。大いに期待できる！ ・R3ツアーの認知また告知していくツールとしての動画作成は、今後のツアーの拡大に向けてその有用性は評価するが、新型コロナウィルスの影響を受けて、安全・安心をどうアピールしていくのが、今後の課題になると考える。様々な工夫、知恵に期待したい。
2	インフラを活用した新しいツーリズムの創出 【萌える天北オロロンルート】	11	<ul style="list-style-type: none"> ・生活型インフラとツーリズムを結びつけた、住民の自信とプライドづくりを評価。 ・流雪溝の投雪体験を観光コンテンツとするインフラツーリズムの新たな可能性を追求している。 ・面白い大事な企画である。受け入れ態勢など問題は多々あろうが、複数回のツアー催行につながるような工夫もお願いしたい。 ・「流雪溝」というマイナーな観光資源にスポットを当てた意欲的な取組であるが、いくつかのインフラツーリズム対象の素材を広域でまとめて（他のルートとの連携も含む）打ち出すようにしないとインフラツーリズムのコンセプトすらも不完全燃焼してしまう恐れがある。今後の楽しみな課題ではある。 ・インフラツーリズムという新しい分野の開拓に期待する。「体験型ツアー」が今後どのように変化していくのか、昨今の情勢を鑑みながら変化、工夫を重ね確立したものへ昇華させてほしい。
3	写真を活用した地域の魅力発信事業 【十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート】	3	<ul style="list-style-type: none"> ・丹念な地域の魅力の発掘と価値づくりを評価。全道・全国への発信を期待。 ・巡回展示とその地域住民への効果が評価できる。何人くらいに見ていただいたのでしょうか。 ・「フォトコンテスト」という地域の魅力発信に長年継続して地道に取り組んでこられた努力に敬意を表するが、「PRポイント」にあるようにアナログの良さもあるが、時代のスピードへの限界もあるので、デジタルへの転換の好例としての取組を開始しては如何でしょうか？
4	情報ボックス（BOX）事業 【十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間】	10	<ul style="list-style-type: none"> ・観光業者に依存しないツーリズム拠点情報の発信を評価。DMOづくりへの発展も期待。 ・情報ボックスのデザインが洗練されているほか、構築されたパンフレットの配送システムは他のルートにとっても大きな参考となる。 ・施設間の連携を強め、一体性とルート全体の魅力を増すために大事な取り組み。十勝MaaSとの連携があればさらに良かった。 ・観光地域での生きたアップデートな情報提供はデジタル全盛時代でも必要不可欠な機能、サービスなので、この地道な取組に敬意を表するが、デジタルとアナログ、昔流行った「ブリック&モルタル」の手法が必要ではないかと思えます。 ・情報発信は観光空間づくりの原点であり、派手な要素はないが、継続的に地道に展開していく必要があることから8年間の活動と拡大について評価する。メンバー間でのルート情報の共有、広報ツールとしての価値を高めたと考える。
5	どうなんサイクルツーリズム推進事業 【どうなん・追分シーニックバイウェイルート】	9	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクルツーリズムと連携した価値体感シナリオづくりへのチャレンジを評価したい。 ・3年という短期間で、ルート作成、設備整備、モニターツアー、広報活動等幅広い活動が行われ、大きな成果をあげている。 ・有意義な取り組みである。イベント的試験実施との印象があるが、ガイドツアーやセルフガイドツアーへのさらなる進化を期待したい。 ・ポストコロナの時代のツーリズムにおいて「サイクルツーリズム」は重要な働きをします。この機に全道的に取組を強化しては如何でしょうか？

活動名称 **きた北海道エコ・モビリティの推進 R3プロモーション動画の作成** エントリー部門 **魅力ある観光空間づくり**

ルート名称 **天塩川シーニックバイウェイ × 宗谷シーニックバイウェイ**

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 目的・目標／体験型観光と個人旅行のニーズを含め、一次交通の衰退や二次交通の脆弱さを逆にとり、地域にとってプラスとして、地域資源に触れ・遊び・移動そのものが観光となる新しい旅のスタイル『きた北海道エコ・モビリティ』を広域で連携・推進
⇒スロウな旅が地域への滞在時間の長期化・経済効果・周遊性向上に繋がる

●活動内容／**R3プロモーション動画の作成**

道（Road=自転車・歩く）と**川**（River=カヌー）と**鉄道**（Rail=JR宗谷本線）が並行する地域性を活かして**3つのR**を繋ぎ、美しい景観を見て＆自然に触れて遊び＆美味しいものを味わいながら日本のてっぺんを目指す旅を推奨するため、過年度までにはアクティビティと食や観光を繋げるコース設定、コンテンツの発掘・検討を進め、それらを組合せた「R3モニターツアー」を昨年度実施した。ツアー参加者からの満足度や今後への期待も多く、意見等も参考に、**R3プロモーション用のイメージ動画**を作成した。

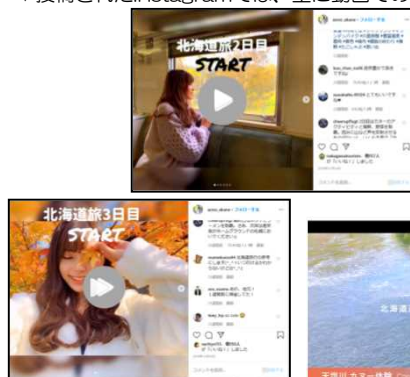
★ターゲット：20～30代の女性★
⇒食と観光+遊べるプチアクティブな女子旅

- 活動期間／2019年9月～2020年3月
＜2017年度から「きた北海道エコ・モビリティ」の取組みを継続実施＞
- 活動範囲／きた北海道エリア（天塩川シーニックバイウェイ、宗谷シーニックバイウェイ、その他関係する近隣市町村）



▲撮影の様子

▼投稿されたInstagramでは、主に動画での公開。



▼作成した動画画面。旭川空港へ到着してからバスで移動、手荷物を預け、自転車やカヌーで移動しながら、御当地食を堪能しながら宗谷岬へ。映像は約5分。



②活動の体制

実施主体 **きた北海道エコ・モビリティ**
天塩川シーニックバイウェイ【事務局】
宗谷シーニックバイウェイ
 シーニックバイウェイ支援センター

常 に 密 に 情 報 共 有

＜協力・連携＞
 北海道エコ・モビリティ研究会／北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会／旭川開発建設部／稚内開発建設部／JR北海道旭川支社／その他（団体/自治体/企業等）

③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・紅葉シーズンの美しい自然風景の時期を狙った。天候にも恵まれ、よい撮影ができた。
- ・実際のJR便に合わせているため、撮影タイミングなどに苦労した。
- ・Instagramのフォロワー数が多いモデル（2名）を起用し、それぞれのInstagramで撮影の様子や地域の情報をアップしてもらい、PR効果を促した。

【活動による効果】

- ・Instagramに、movieや写真画像、地名や特産品等を#でタグ付による投稿が10回以上があった。インスタグラムなどを中心に述べ約1000件ものコメントやいいね数があり、広く周知に繋がった。

【今後の展開】

- ・動画を有効的に活用し、広く周知するための手法を検討したい。（例）道央圏・首都圏等へのPR、外国語版動画の作成）
- ・JR宗谷本線の存続等も踏まえて、今後も沿線自治体と協議しながら検討していきたい。
- ・北海道・道北の魅力でもある“雪”に触れるWinterシーズンのPRにも、力を入れていきたい。
- ・新型コロナウイルスの影響による旅行等の自粛などを踏まえ、PR手法等を検討したい。

▼活動団体賞
〔エントリー16件〕

地域住民と道路管理者の地域協働による
板割拡幅記念植樹区間景観保全活動
(札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート)

▼部門賞

①景観づくり賞
〔エントリー4件〕

～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取り組み～
函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」
(函館・大沼・噴火湾ルート)

②地域づくり賞
〔エントリー4件〕

～羊蹄山ビューポイントの眺望を守り・活かす環境保全活動～
「みらいの森」育樹プロジェクト
(支笏洞爺二セコルート)

③観光空間づくり賞
〔エントリー5件〕

きた北海道エコ・モビリティの推進R3プロモーション動画の作成
(天塩川シーニックバイウエイ
宗谷シーニックバイウエイ)

▼最優秀賞「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト」

ルート審査委員会から次のプロジェクトを推薦を拝受

⇒～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取り組み～
函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」

■選出理由及び今後の発展に向けての期待

活動の持続性と地域・住民・企業・来訪者との共感性の高さ多くの市民、企業等の協力者を集め活動を着実に実行しており、ルートとしてのすべての活動の原点となるものであることを評価。今後、花いっぱい活動が道の駅と連携していく事を期待。

NO	ルート名称	活動名称	点 数										活動団体賞	コメント (評価できる点、良かった点など)						
			支那・洞窟・ニセコ	大宮・富良野	東オホーツク	宗谷	釧路湿原・阿寒・摩周	函館・大沼・噴火湾	萌える天北	十勝平野・山麓	トカプテ	十勝夢街道			廣岩山麓・定山渓	どうなん・道分	天塩川	層雲峡・オホーツク	空知	知床ねむろ
①	東オホーツクシーニックハイウェイ	シーニックデッキの設置	3								2				1		3	9	<ul style="list-style-type: none"> ・シーニックデッキを設置し、その維持管理が大変であり、メンバーも高齢化しているとのことだが、今後も頑張ってください。 ・マルシェの実施により、ルート内でのシーニックの認知度向上につながった事。 ・継続性を評価。 ・道の駅メルヘンの丘は立樹のバラスが絶妙で、美しい風景のあるところ。デッキを整備することにより、鑑賞する場所の居心地も向上している。 	
②	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックハイウェイ	清掃活動から始める連携の輪～活動継続と戦略的展開～			3					3	3	2	2		3		2	18	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな団体が参加して参加する団体が広がっているところが素晴らしい。 ・清掃活動の継続から、新規分野のサイクル活動へと展開され、拡張性を評価 ・自転車での清掃活動を行うなど、ルートでのサイクル活動への認知向上につなげている。 ・ほかにも継続している自主活動の他、他団体や他の場所へも活動を広げ輪が広がろう！ ・活気がある。 ・景観を整備する取り組みは、やはりシーニック活動の原点ではないかと思っています。 ・地道で継続的な活動の中にも、サイクリングやウェルネスといった楽しみも含まれながら、持続的な活動をしている点も評価する。 ・約800名という参加者数の多さ、沿線の地域住民を巻き込んだ活動も素晴らしい。夏期の植栽活動にとどまらず、冬期のシーニックdeナイトと年間を通じた持続的な活動を展開しているところが素晴らしい。 ・平成16年から継続的に実施され、地域・民間企業・道路管理者等で十分に連携が取れており地域の愛着醸成に貢献している。 ・団体、企業など地域の連携に加え、子供たちの参加による次世代への継承を評価 ・特約的な取り組みが増えてきたつながりは、シーニックの活動に不可欠だと思います ・存続の整備は多いが、至る所が整う。 ・今は、中々拡幅記念植樹は、地域住民と一緒に出来た事に意義があり、今後の景観保全管理に期待できる。 ・実施前後の景観の変化が目撃出来た。継続した活動により、景観が劇的に向上しているのが素晴らしい。 ・4年間の地域活動による健全な活動成果が目に見えて現れ、「美しい道景観」を創出し素晴らしい。 ・地域の子どもたちの活動が観光客という形に現れることで、道民の誇りが生まれ、事業の継続性に繋がろう。 ・地域住民と道路管理者が連携し景観向上に取り組んでいる点を評価。 ・道景観向上に期待。 ・やはり景観を、走る道路の景観が美しいものであること、そこから発展するシーニックだと思います ・子どもも参加する活動を評価する。道内各所への賞賛点も嬉しい。活動による景観効果が高いことも評価する。 ・走りながら感じる見える景色を美しいと感じた。作業内容も軽装とペースがよい活動で大変評価できる。 ・教育機関との連携による育樹活動から、児童生徒が環境保全への意識向上につながり評価 ・道民と地元コミュニティとして、周辺環境の整備・地域の人材育成につなげている。 ・沿道景観向上に期待。 ・多様な連携のもとに森づくりを地道に継続的に取り組んでいること、昨年度の風景街道大学での活用なども評価できる。 	
③	函館・大沼・噴火湾ルート	～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取り組み～ 函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」			2						2	1				2	2	9		
④	札幌シーニックハイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート	域住民と道路管理者の地域協働による 桜割拡幅記念植樹区間景観保全活動	5	3	2						3	3	3			1	2	5	27	<ul style="list-style-type: none"> ・道景観向上に期待。 ・やはり景観を、走る道路の景観が美しいものであること、そこから発展するシーニックだと思います ・子どもも参加する活動を評価する。道内各所への賞賛点も嬉しい。活動による景観効果が高いことも評価する。 ・走りながら感じる見える景色を美しいと感じた。作業内容も軽装とペースがよい活動で大変評価できる。 ・教育機関との連携による育樹活動から、児童生徒が環境保全への意識向上につながり評価 ・道民と地元コミュニティとして、周辺環境の整備・地域の人材育成につなげている。 ・沿道景観向上に期待。 ・多様な連携のもとに森づくりを地道に継続的に取り組んでいること、昨年度の風景街道大学での活用なども評価できる。
⑤	支笏洞爺ニセコルート	～羊蹄山ビューポイントの眺望を守り・活かす環境保全活動～ 「みらいの森」育樹プロジェクト				4						3			1			10		
⑥	東オホーツクシーニックハイウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー											1					1		
⑦	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックハイウェイ	道の駅と連携した情報提供の実施				3							1		2		3	10	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の活用の一部の見本としたい。 ・道の駅と地域が連携し、互いの魅力アップにつながっている点を評価 ・クーポンも配布したことにより、利用者が増え、結果観光客が増えた事。 ・道の駅の魅力を伸ばすこと、 ・道の駅との連携による地域情報発信、旅行者の周遊誘発については、全道の展開が期待される取り組みであり、先進的な事例として評価できる。 	
⑧	層雲峡・オホーツクシーニックハイウェイ	シーニックマルシェの開催																0		
⑨	空知シーニックハイウェイ 体感未来道 -	～これからの空知を考える～地域創生フォーラム									1							6	<ul style="list-style-type: none"> ・空知は若手が頑張っていると感じる。このフォーラムはその熱意を感じる。ぜひこれからも頑張ってください。 ・目指すべき方向をすず野を上げながら確認している 	
⑩	知床ねむろ・北太平洋シーニックハイウェイ	地域情報発信・ドライブマップの作成			3								1					4	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の金融機関と連携した情報発信の仕組みが素晴らしい。 ・ドライブコースを6種類設定し、初めて地域を訪れる人にも自分の興味のある分野を巡るコースが出来、より身近に地域の魅力を感じる事が出来る ・スタートした活動のベースとなるマップは、みていて楽しいものです。ルートの紹介としてよかったです 	
⑪	天塩川シーニックハイウェイ/宗谷シーニックハイウェイ	きた北海道エコ・モビリティの推進R3プロモーション動画の作成	2				4				3		3				6	20	<ul style="list-style-type: none"> ・長と観光十遊べるブティックな女子旅という20～30代にターゲットと絞っているが、今後は、もっと年齢層を広げていきたい。今後の期待を込めて選ばせて頂きました。 ・道・川・鉄道による移動とコンセプトを統一、かつターゲットを明確にして取り組み、地域課題を逆手にとって、プラスの要素としているのが素晴らしい。動画で活動内容をイメージしやすいものになっている。 ・ルート同志が連携している活動が羨ましい。 ・移動のものを観光という取組に共感を持つ。 ・北海道観光の魅力である「移動」を旅スタイルに入れたのがよいと思う。 ・また、女子旅にターゲットを絞ったのも評価できる。 ・他ルートとの連携が良い。不便さがある中で、車以外も利用している。イメージ動画は、他にも活用できる。 ・天塩川ルートの取り組みは毎回興味深い。映像・動画を活用したPRは今後必ず必要になる部分なのでトカプテとしても(特に節会として)参考にした。 	
⑫	萌える天北オロロンルート	インフラを活用した新しいツーリズムの創出		2				4	2					5				17	<ul style="list-style-type: none"> ・萌える天のインフラツーリズムは、これまでにない新しい取り組みである。これからも継続して行って欲しい。 ・地味だけど、地域で連携し交流を深める大事な活動と感じた。 ・マニアクではあるが面白い取組だと感じた。需要と供給が一致すると合理的解決となる。 ・地域の課題を観光コンテンツとして捉え、インフラツーリズムとして実践された先進性を評価 ・流雪道という着眼点が素晴らしい ・冬の観光が落ち込む時期に「暮らし」をテーマとしたツーリズムの開発に着手した点が評価できる。次の一手の留納地域体験ツアーに期待する ・地域の「色」を商品化したのはよいと思う。 	
⑬	十勝シーニックハイウェイ 十勝平野・山麓ルート	写真を活用した地域の魅力発信事業													2			5	<ul style="list-style-type: none"> ・継続してフォトコンテストを行うのは大変なこととしてそれを地域に還元していくのは大事。 ・地域住民が地域の魅力を再確認し、地域への愛情や誇りを増進できた事。SNSを利用したことにより、より気軽に応募してもらえたようになった事。 	
⑭	十勝シーニックハイウェイ トカプテ雄大空間	情報ボックス(BOX)事業				3									1			7	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区のパンフレット等設置しているため、観光客の需要が高い事。観光客に対する、情報ツールとして作成したが、ルートメンバーの重要な広報ツールとして、活用されている事。 ・新たな視点を評価。 ・事業者間で相互にPRを行うことで、旅行者の周遊を誘発するとともに、相互理解にも繋がると思われる。また情報ボックス自体が、統一性を持ったデザインとなっており、「分かりやすい情報発信」という観点でも評価できる。 	
⑮	どうなん・道分シーニックハイウェイルート	どうなんサイクルツーリズム推進事業		5												1		6	<ul style="list-style-type: none"> ・活動団体それぞれの強みを生かした事業となっている ・歴史とサイクリングのMIX UPに期待。 	
⑯	空知シーニックハイウェイ 体感未来道-	“道の駅”からはじまる“空知サイクルツーリズム”					2					1			5			11	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の活用ということでの意義が大きい。 ・サイクルツーリズムの拠点を道の駅に設置した点が素晴らしい。更には担当者の雇用を生んだ点が評価できる。 ・道の駅の活用は、シーニックの原点であり、これからの広がりに期待できる。 ・サイクルには可能性を感じる。 ・日本一の産産道路といった他のルートには絶対ない資源を活用している点を評価する。 	

合計点数 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10

<エントリー部門:①美しい景観づくり>

NO	ルート名称	活動名称	点数					部門賞	コメント (評価できる点、良かった点など)
			小林 英嗣	高野 伸栄	石田 東生	石山 静	臼井 純子		
1	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックデッキの設置	2	1	1	3	7		・持続性を評価したい、観光のあり様が大きく変わろうとしているとき、デッキ活用内容・情報発信など、V2の展望を期待したい。 ・シーニックデッキとマルシェの連携、設置や移動はご苦労様です。 ・「シーニックデッキ」で「マルシェ」、SBWのスタンダードなコア活動としてこのルートも事業内容に取り入れるようになることを目指し、さらなるブラッシュアップと進化を!
2	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	清掃活動から始める連携の輪～活動継続と戦略的展開～	2	1	2	2	5	12	・活動の連携を評価したい、戦略性や次への展開も期待が大きい。 ・継続に向けてのモチベーション維持のための工夫と努力は参考になる。 ・「おもてなし」、「環境美化」、「メンバー連携」、「新分野への拡張」、SBWの重要な概念が凝縮されたこの活動は今後も連携・浸透・拡張しつつ進化させながら継続して行ってほしい。学校教育の場で旅育ともなるのでその分野へのアプローチ強化を! ・包括連携機能の北海道・ユーライオンや、連携者、林野庁、未参加だった行政会議の自治体メンバーも参加するなど、新たな活動メンバーの加入、サイクルツーリズムと絡めて、ルートに新しい風を吹き込んだことを評価する。 ・活動の持続性と地域・住民・企業・来訪者との共感性の高い活動として評価したい。
3	函館・大沼・噴火湾ルート	～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取り組み～ 函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」	5	3	4	3	5	20	・多くの市民、企業等の協力者を集め、二世帯にわたる長年の活動を着実に進めており、その実績は評価に値する。 ・圧倒的なボリュームと大人数の参加が素晴らしい。地域コミュニティへの浸透と2世代にわたる参加もたゆまぬ努力の表れ。 ・ルートとしてのすべての活動の原点ともなるので、北前船の高田屋嘉兵衛の足跡のごく他のルート・観光地のリーダー役として継続・進化を! ・10年を越える継続的な活動を評価。出資企業の増加など、活動が拡大していること、活動参加者の継承は、モデルとなる取組である。 ・地元メンバーによる自主部会治道管理のスタートを切ったことを評価したい。 ・地域住民、道路管理者が連携して、3年という活動期間の中で、景観改善や、意識の向上等大きな成果をあげている。 ・子供を巻き込んだ楽しそうな作業が魅力的。 ・「道路管理者との連携」、これも重要なSBWの柱であり、これを端緒に他ルートの礎となるよう継続的・拡張的な取り組みを!
3	札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート	地域住民と道路管理者の地域協働による板割幅幅記念植樹区間景観保全活動	1	5	3	2		11	

<エントリー部門:②活力ある地域づくり>

NO	ルート名称	活動名称	点数					部門賞	コメント (評価できる点、良かった点など)
			小林 英嗣	高野 伸栄	石田 東生	石山 静	臼井 純子		
1	支笏湖船ニセコルート	～羊蹄山ビューポイントの眺望を守り・活かす環境保全活動～ 「みらいの森」育樹プロジェクト	4	4	3	4	5	20	・地球環境への視点とその持続性を評価。SDGsと結び付けた活動としての展開も期待。 ・高校の研修旅行、民間企業の研修活動とタイアップして、育樹活動の推進、交流機会拡大等大きな成果をあげている。 ・森の育成も評価できるがそれ以上にみんまで場を活用する、楽しむ、森と努力の力を要するとういう雰囲気も素晴らしい。 ・森の活動例としてある組織、機能を盛り込んだ長期、継続的かつサステイナブルな活動であり、内外の賛同者、協力者の拡大が期待される! ・SDGsの取組としては活動の活動の中でも特筆すべきものと評価する。育樹活動を通じて「森」をつくるというコンセプトは北海道ならではの取組であり、全国の活動へのモデルとなる取組と考える。
2	東オホーツクシーニックバイウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー	2	1				6	・マイクロツーリズムと結び付けた基礎的な活動を評価。次への展開が期待できる。 ・スタンプラリーに留まらず、より深い連携が道の駅との間に広がればよかった。 ・「道の駅」を活用した取組も、SBWとして重要かつ喫緊のテーマであるが、それに包括連携機能を絡ませた新たな取組で、今後、他ルートへの浸透・拡張が期待される!
3	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	道の駅と連携した情報提供の実施	2	2	6	3	5	18	・道の駅との連携を評価。地域の観光資源(人材)の内念な発掘と発信を期待。 ・道の駅と連携した情報提供について、毎年着実に改善に取り組んでいる。 ・第3ステージでは道の駅とSBとの連携もうたわれているが、そのモデルともなりうる先駆的取組であり、連携の継続性も評価できる。 ・「道の駅との連携」の取組の典型的なケースであるが、効果測定も視野に入れた活動となっており、今後、さらなる進化が期待される! ・「道の駅」とシーニック、また地域との連携を具体的に取組、成果(拡大)をあげてきている点を評価する。言葉で「連携」というのは簡単だが、関係者全員にメリットがないと進まないのが現状であり、一歩一歩積み上げて、良好な関係作りを築き上げていく点を評価する。 ・地域資源を丹念に発掘・発信しようとする姿勢を評価。SNS活用や過半数も期待。 ・ルートの中心的取組として、長期に亘って進められ、シーニックバイウェイ制度、層雲峡ルートの知名度向上に貢献している。 ・マルシェを3か所で開催したことを評価。ただ、反省や効果などが定性的でよいので分析され、今後につながることを期待したい。 ・「マルシェ」の先進ルートである「東オホーツク」との連携やパラサイトの特産品販売にとどまらず、一工夫二工夫した進化系活動が望まれる。 ・地道だけ大事な活動を4年継続されていることに敬意を表したい。
4	層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックマルシェの開催	2	3	1			6	
5	空知シーニックバイウェイ-体感未来道-	～これからの空知を考える～地域創生フォーラム							
6	知床むねろ・北太平洋シーニックバイウェイ	地域情報発信・ドライブマップの作成							これから期待したい。

<エントリー部門:③魅力ある観光空間づくり>

NO	ルート名称	活動名称	点数					部門賞	コメント (評価できる点、良かった点など)
			小林 英嗣	高野 伸栄	石田 東生	石山 静	臼井 純子		
1	天塩川シーニックバイウェイ/赤谷シーニックバイウェイ	きた北海道エコ・モビリティの推進R3プロモーション動画の作成	5		4	4	4	17	・地域インフラを重視させつつ、新たな観光の在り方へチャレンジを高く評価したい。 ・2つのルート、3つのPRを融合した優れたPRプロモーション。今後はこれを実際のツアー造成や需要掘り起こしに活用しえていただきたい。成果を期待したい。 ・世の中に広く訴求させたい地域の魅力とターゲットを明確にして、現在最もトレンドな「動画」という先進的なメディアで周知させ、他地域と連携で行うというチャレンジ的な取組である。大いに期待できる! ・R3ツアーの認知また告知していくツールとしての動画作成は、今後のツアーの拡大に向けてその有用性は評価するが、新型コロナウイルスの影響を受けて、安全・安心をどうツアーしていくのかが、今後の課題になる点もある。様々な工夫、知恵に期待したい。 ・生活型イクスピアリズムを結びつけた、住民の自己責任を評価。 ・流雪湾の投雪体験を観光コンテンツとする「インフラツーリズム」の新たな可能性を追求している。 ・面白い大事な企画である。受け入れ態勢なども問題は多々あるが、複数回のツアー一併行につながるような工夫もお願いしたい。 ・「流雪湾」というマイナーな観光資源にスポットを当てた意欲的な取組であるが、いくつかのインフラツーリズム対象の素材を広域でまとめた(他のルートとの連携も含む)打ち出すようにしないとインフラツーリズムのコンセプトすらも不完全燃焼してしまふ恐れがある。今後の楽しみな課題ではある。 ・インフラツーリズムという新しい分野の開拓に期待する。「体験型ツアー」が今後どのように変化していくのか、昨今の情勢を鑑みながら変化、工夫を重ね確立したものに昇華する地域の魅力の発展と価値づくりを評価。全道・全国への発信を期待。 ・巡回展示とその地域住民への効果が評価できる。何人かに聞いて見たいのでしようか。 ・「フォトコンテスト」という地域の魅力発信に長年継続して地道に取り組んでこられた努力に敬意を表するが、「PRポイント」にあるようにアナログの良さもあるが、時代のスピードへの限界もあるので、デジタルへの転換の好例としての取組を開始しては如何でしょうか?
2	萌える天北オロロンルート	インフラを活用した新しいツーリズムの創出	1	4	2	1	3	11	
3	十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	写真を活用した地域の魅力発信事業	1		1	1		3	
4	十勝シーニックバイウェイ トカチ雄大空間	情報ボックス(BOX)事業	1	3	2	1	3	10	・観光業者には依存しないツーリズム拠点情報の発信を評価。DMOづくりへの発展も期待。 ・情報ボックスのデザインが洗練されているほか、構築されたパンフレットの配送システムは他のルートにとっても大きな参考となる。 ・施設間の連携を強め、一体性とルート全体の魅力を増すために大事な取り組み。十勝MaaSとの連携があればさらに良かった。 ・観光地域での生きたアップデータな情報提供はデジタル全盛時代でも必要不可欠な機能、サービスなので、この地道な取組に敬意を表するが、デジタルとアナログ、昔流行った「ブリック&モルタル」の手法が必要ではないかと思います。 ・情報発信は観光空間づくりの原点であり、派手な要素はないが、継続的に地道に展開していく必要があることから8年間の活動と拡大について評価する。メンバー間でのルート情報の共有、広報ツールとしての価値を高めた点も評価する。 ・サイクルツーリズムと連携した価値体感シナリオづくりへのチャレンジを評価したい。 ・3年という短期間で、ルート作成、設備整備、モニターツアー、広報活動等幅広い活動が行われ、大きな成果をあげている。 ・有意義な取り組みである。イベント的試験実施との印象があるが、ガイドツアーやセルフガイドツアーへのさらなる進化を期待したい。 ・ポストコロナの時代のツーリズムにおいて「サイクルツーリズム」は重要な軸をきくと思います。この機に全道的に取組を強化しては如何でしょうか?
5	どうなん・追分シーニックバイウェイルート	どうなんサイクルツーリズム推進事業	2	3	1	3		9	
6	空知シーニックバイウェイ-体感未来道-	“道の駅”からはじまる“空知サイクルツーリズム”							

ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2019実施要領

1. 目的

シーニックバイウェイ北海道の推進に向けて、他の模範となるルート活動の積極的な創出、啓発・普及を目的とする。

2. 表彰

大賞1件（指定ルートを対象）
部門賞の中から大賞を1件選出

部門賞3件（指定ルートを対象）
＜エントリー部門＞

- ①美しい景観づくり賞
- ②活力ある地域づくり賞
- ③魅力ある観光空間づくり賞

※部門賞は、部門毎に1件とし最大3件とするが、評価の結果によつてはこの限りではない。

活動団体賞1件（指定・候補ルートを対象）

3. 応募要件

応募の対象となる活動は次の条件に該当するものとする。

（1）指定ルートの場合

- ①それぞれのルート運営活動計画にもとづき実施し、2年以上の実績を有する活動を対象とする。
- ②過年度に「最優秀賞」を受賞した活動は応募不可とする。なお、最優秀賞以外の賞を受賞した活動は、再度の応募登録が可能とするが、選定にあたっては、前回からの改善、向上等が認められることを必要とする。

（2）候補ルートの場合

- ①ルート登録以前から継続実施している活動も可とする。
- ②過年度に受賞した活動は、再度の応募登録が可能とするが、選定にあたっては、前回からの改善、向上等が認められることを必要とする。

※応募件数は、各ルート『2プロジェクト』程度とする。なお、1部門につき1件の応募とする。

4. 応募期間

令和2年 3月9日（月）～令和2年 4月22日（水）

5. 応募様式

- ・ 取り組みの概要について説明資料を別紙1の様式をもとに作成する。
- ・ 活動団体はエントリー部門を自ら選択の上、プロジェクトを登録

(記載事項)

- i) 活動名称、エントリー部門、ルート名称
- ii) 活動概要(目的・目標、活動内容、具体的な取組、活動期間等)
- iii) 活動体制(活動団体、人数、体制図等)
- iv) PRポイント(総意工夫した点、苦勞した点、活動による効果等)

6. 選定方法

① 部門賞・・・ルート審査委員の投票による選定

- ・ ルート審査委員は各部門毎に上記視点を踏まえて登録プロジェクトを評価の上、持ち点10点の自由配分方式で配点する。
- ・ 集計の上、最多得票を得たプロジェクトを各部門の部門賞とする。

② 大賞・・・ルート審査委員による選定

- ・ 3点の部門賞プロジェクトを対象に、ルート審査委員会において総合的に判断し、大賞を決定する。
- ※ 各部門における登録プロジェクト数の多少により得点の大小も左右されるため、得点のみによる決定は行わない。

③ 活動団体賞・・・各ルートの投票による選定

- ・ 各ルートは、自ルート以外に登録された全プロジェクトに対し自らの価値観で評価するプロジェクトを、持ち点10点の自由配分方式で配点する。
- ・ 集計の上、最多得票を得たプロジェクトを活動団体賞とする。

7. 評価の視点

地域の資源を発見・活用し、有形・無形の「新しい価値」を生み出しているか否かに評価の軸を置くと共に、以下の点に留意し、プロジェクトの評価を行う。

<部門賞及び大賞>

- 持続性(取組の継続性の程度を評価)
- 浸透性(地域内への広がり程度を評価)
- 拡張性(モデルケースとしての地域外へ展開の程度を評価)
- 連携性(地域同士や他団体との連携の程度を評価)
- 先進性(新しいものに取り組んでいく姿勢の程度を評価)
- 効果性(定量的・定性的な効果の程度を評価)
- 人材育成

※ 上記全ての網羅を条件とするものではなく、各指標の重み付けも固定されているものではない。

8. 各賞決定までの流れ(スケジュール)

別紙2のとおり

ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2019 応募一覧

NO	ルート名称	活動名称	エントリー部門	活動年数
1	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックデッキの設置	①美しい景観づくり	15年 (H17～R01)
2	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	清掃活動から始める連携の輪～活動継続と戦略的展開～	①美しい景観づくり	6年 (H26～R01)
3	函館・大沼・噴火湾ルート	～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取り組み～ 函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」	①美しい景観づくり	16年 (H16～R01)
4	札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート	地域住民と道路管理者の地域協働による 板割拡幅記念植樹区間景観保全活動	①美しい景観づくり	4年 (H28～R01)
5	支笏洞爺ニセコルート	～羊蹄山ビューポイントの眺望を守り・活かす環境保全活動～ 「みらいの森」育樹プロジェクト	②活力ある地域づくり	2年 (H30～R01)
6	東オホーツクシーニックバイウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー	②活力ある地域づくり	8年 (H24～R01)
7	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	道の駅と連携した情報提供の実施	②活力ある地域づくり	6年 (H26～R01)
8	層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックマルシェの開催	②活力ある地域づくり	7年 (H25～R01)
9	空知シーニックバイウェイ-体感未来道-	～これからの空知を考える～地域創生フォーラム	②活力ある地域づくり	4年 (H28～R01)
10	知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイ	地域情報発信・ドライブマップの作成	②活力ある地域づくり	1年 (R01～R01)
11	天塩川シーニックバイウェイ／宗谷シーニックバイウェイ	きた北海道エコ・モビリティの推進R3プロモーション動画の作成	③魅力ある観光空間づくり	1年 (R01～R01)
12	萌える天北オロロンルート	インフラを活用した新しいツーリズムの創出	③魅力ある観光空間づくり	5年 (H27～R01)
13	十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	写真を活用した地域の魅力発信事業	③魅力ある観光空間づくり	2年 (H30～R01)
14	十勝シーニックバイウェイ トカプ子雄大空間	情報ボックス(BOX)事業	③魅力ある観光空間づくり	8年 (H24～R01)
15	どうなん・追分シーニックバイウェイルート	どうなんサイクルツーリズム推進事業	③魅力ある観光空間づくり	3年 (H29～R01)
16	空知シーニックバイウェイ-体感未来道-	“道の駅”からはじまる“空知サイクルツーリズム”	③魅力ある観光空間づくり	3年 (H29～R01)



ベスト シーニックバイウエイズ プロジェクト2019 応募プロジェクト一覧



ベストプロ2018 最優秀賞

どうなん・追分シーニックバイウエイルート

どうなん道の駅連携事業

シーニックバイウェイ北海道推進協議会

ベストシーニックバイウエイズプロジェクト2019

① 美しい景観づくり



1. シーニックデッキの設置(東オホーツクシーニックバイウエイ)
2. 清掃活動から始める連携の輪～活動継続と戦略的展開～
(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ)
3. ～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取組み～
函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」
(函館・大沼・噴火湾ルート)
4. 地域住民と道路管理者の地域協働による
板割拡幅記念植樹区間景観保全活動
(札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート)

活動名称 シーニックデッキの設置 エントリー部門 美しい景観づくり

ルート名称 東オホーツクシーニックバイウエイ

- ①活動概要
- 活動の目的・目標：
景観の良い駐車スペースのあるポイントに、シーニックデッキを設置し旅行者などがゆっくりと景色を眺め休憩する事により、東オホーツク地域全体の景観PRをはじめ地域との交流を促進します。また、農産物等の特産品販売等、コミュニティビジネスの創出の可能性も高め、更に道路利用者のオアシスとして交通安全に寄与させます。
 - 活動内容：
常設されているウトロポケットパーク、メーメーベーカーリー（斜里）の他、あばしりフロックス公園、メルヘンの丘（女満別）、季風クラブ（ウトロ）、コスモロード（上斜里）、コミット（清里）、斜里岳山小屋清岳荘（清里）、小清水リリーパークに置いて地域交流、休憩、良好景観鑑賞用のウッドデッキを春～秋にかけて設置しています。また、シーニックデッキの周知徹底のため、通常設置している数カ所から人の多く集まる箇所にデッキを集約し、『シーニック・マルシェ』を開催しています。
 - 活動期間：
平成17年度～（マルシェは上斜里コスモロードでの試行を含め平成19年度～）
- ②活動の体制
- 活動団体、人数、体制図等
【デッキ設置・撤去】網走市観光協会、小清水町観光協会、東藻琴観光協会、清里町商工会、きよさと観光協会、上斜里フラワーロード推進協議会、清里町花と緑と交流のまちづくり委員会、知床斜里町観光協会
【マルシェ】上記の活動団体の他、ルート内の農商工業者（出店者。10団体/年程度）
- ③PRポイント
- 創意工夫した点
利用促進のため、マルシェやルートマップ、HPやSNSを活用してルート内外への取り組みと設置場所・時期の周知を行ないました。
 - 苦勞した点
メンバーも高齢化しているため、マルシェ時の重いデッキやテント等の移動や補修時のデッキの移動が大きな負担となっています。地元建設業関係者やルート担当にも協力頂いていますが、今後マルシェ出店者にもマルシェ時の移動には協力頂く等の対応を行っていただければと考えております。
 - 活動による効果
ルート内の新たな景観資源となりました。マルシェの実施により、ルート内でのシーニックの認知度向上、農商工業者の新たな販売機会を創出することができました。
 - ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2015受賞（美しい景観づくり賞）からの改善点
近年売上の多いウトロ、パパス（清里）のマルシェを中心にルート内他地域も含めた新たな出店者への呼びかけを強化し、新規出店を行うことができた。



シーニックデッキ(大空町メルヘンの丘)

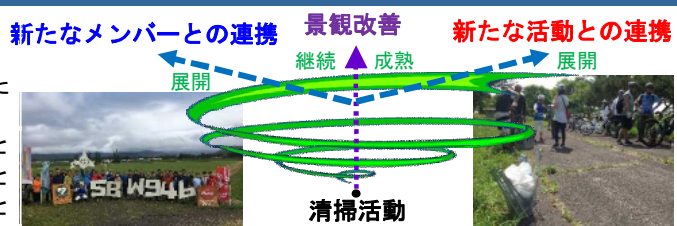


シーニックマルシェ(道の駅ウトロ・シリエトク)

活動名称 清掃活動から始める連携の輪～活動継続と戦略的展開～ エントリー部門 美しい景観づくり

ルート名称 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ

- ①活動背景と活動目的
- 背景
 - ①ルート創設より、シーニックバイウエイの柱の1つ「美しい景観づくり」の基本的で、誰でも参加できる活動として「清掃活動」を継続してきた
 - ②ルート活動に参加する活動団体、行政連絡会議のメンバーが固定化してきた
 - ③活動の少ない分野（例：サイクルツーリズム、河川連携）が生じている
 - 目的
 - ①景観改善：清掃活動を継続し、美しい景観をより維持、改善させていくこと
 - ②新たなメンバーの確保：清掃活動を通じ、参加メンバーの広がりを持つこと
 - ③活動の幅を広げる：既存清掃活動との連携でルート活動に広がりを持つこと



- ②活動体制と活動内容
- 活動体制：ルート内4エリアの特徴を活かしてエリアごとに計画し、ルート運営委員会、ルート事務局、コーディネータがサポート
 - 活動内容：ルート内の駐車帯・休憩施設・自転車道での清掃活動（ゴミ拾い）

活動名	開催エリア	R01実施日	継続/新規	備考(特色・方向性)
摩周湖クリーンウォーク	弟子屈エリア	6月1日	継続新規	H30までは弟子屈町主催。R11に中止となったが町民の参加も多く、946SBWで活動を引き継ぐ。
クリーン・サイクリング	釧路エリア	8月4日	新規	自転車の魅力を体験しつつ自転車道のゴミを拾う新規活動。活動の少ない分野への足掛かり。
弟子屈クリーンウォーク	弟子屈エリア	8月31日	継続	H26から継続しているルートの自主活動。今年度は同窓会的な位置づけも持たせて交流促進。
阿寒湖クリーンウォーク	阿寒湖エリア	11月2日	継続	H29から継続しているルートの自主活動。国立公園内の活動で環境庁、林野庁とも連携。
中標津クリーンウォーク	中標津エリア	11月27日	新規	開陽台というフィールドを通じて、これまで関係の薄かった行政連絡会議メンバーと連携。

- ③PRポイント
- たかがゴミ拾い、されどゴミ拾い：継続は力なり！工夫によって継続、展開、成熟させていく。
 - 誰でもできる活動で新たな活動メンバーを確保：誰でも参加できるメリットを活かし、今年度は包括連携企業の北海道コカ・コーラボトリングさんや、環境省、林野庁、これまで未参加の行政連絡会議の自治体メンバーに参加いただいた。8月末の弟子屈クリーンウォークでは、これまでの開発建設部担当者、コーディネーターに声をかけ、清掃活動&同窓会を開催して、ルート創設期の「シーニックへの想い」の再確認。現状へのアドバイスをいただく機会となった。
 - 活動の戦略的展開：サイクルツーリズムに精通する阿寒湖エリアが戦略的に計画。なんとなく近づけずいた新規分野の活動(サイクルツーリズム)に、やり慣れている清掃活動を絡めることで、ハードルが低下。全4エリアの活動団体と釧路開発建設部のメンバーなどが自転車の魅力を実感。満足度も高く、ルートでのサイクル活動への認識が一気に上昇した。



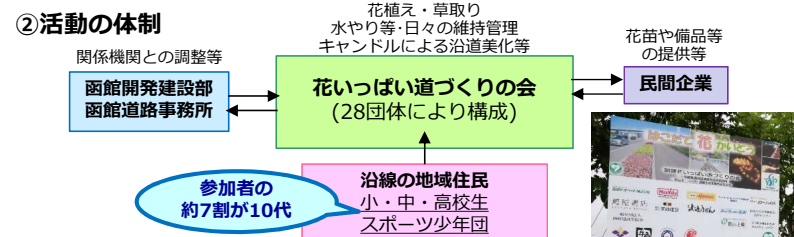
地域FMに出演中の新規参加者



高評価だった自転車清掃活動

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標：
 - ・道ゆくドライバーや函館を訪れた国内外の観光客の方々に「綺麗なお花」を見て、旅の疲れを癒し、喜んでもらいたいというおもてなしの取組み。
 - ・加えて、道路管理者及び沿道の民間企業等とも連携し、綺麗な道の維持管理活動等を通じて、**ボランティアの相互協力関係の構築**を目的とする。
- 活動内容：
 - ①植樹木の土起こし（毎年、5月下旬）
 - ②植樹木への植栽（毎年6月の第2土曜日）
 - ③植樹木の草取り・水やり（毎月第2土曜日 ※月1～2回）
 - ④花の撤去活動（毎年10月の第4日曜日）
 - ⑤ワックスキャンドル製作体験会（毎年12月～1月下旬）
 - ⑥道路沿道へのキャンドル設置・点灯（毎年2月上旬）
- 活動期間：平成16～令和元年度 ※継続展開中
- 実施場所：国道5号 函館新道インターチェンジ付近の植樹木



③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・函館の玄関口でもあり地域としても大切な場所である函館新道の価値を高めるべく、**10年を越えて継続的に国道沿道の維持管理活動を実施。**
- ・**地域・民間企業・道路管理者等の連携体制が十分に図られている。**
- ・**事務局が個別に小中高校を訪問、熱意を伝え、多くの参加に繋がった。**
- ・**協力企業等を掲載した統一看板を設置により協力体制の見える化が図られ、出資企業が増加し、企業のイメージアップと資金収集に繋がった。**

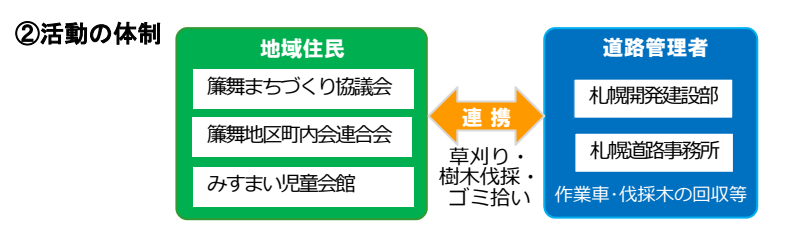
【活動による効果】

- ・夏期(5～10月)だけではなく、冬期(2月)は函館新道沿線をキャンドルで彩る「シーニックdeナイト」にも発展し、**年間を通じた沿線の美化活動に貢献。**
- ・**活動参加者の継承**（中学生が親世代となり親子二代で参加）と**地域愛着の醸成。**
- ・**民間企業**（スーパー、大型量販店等）との**連携体制の強化。**

“一年を通じた函館新道での活動”を通じて、**地域への愛着醸成**や**参加者間の交流促進**に大きく寄与している。

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標：
 - 平成15年に板割拡幅事業の記念植樹が行われた。しかし、時間の経過とともに、樹木が成長し景観を阻害する状態になっていた。平成28年に小金湯さくらの森がオープンしたことを契機に、記念植樹区間の道路空間改善について検討を開始。その結果、平成28年度から、地域住民と道路管理者が協働で草刈りや樹木伐採、ゴミ拾いを実施する道路景観保全活動が始まった。この活動は、平成28年度から始まり、令和元年度まで毎年秋に継続して実施されている。
- 活動内容：
 - ・板割拡幅記念植樹区間での景観保全活動（草刈り、樹木伐採 等）
 - ・みすまい児童会館の子ども達もゴミ拾いや手作りの樹木板を設置するなど景観保全活動と一緒に参加している
- 活動期間：平成28（2016）年度～令和元（2019）年度
- 実施場所：板割拡幅記念植樹環境整備区間（L=0.3km）



③PRポイント

【総意工夫した点】

- ・地域住民と道路管理者が連携し合い、維持管理活動を実施した点

【活動による効果】

- ・活動を継続していくうちに、沿道景観の美観が向上し、それに伴い、**地域住民の地域への誇りと愛着が高まった**
- ・地域住民の景観保全のノウハウの蓄積と景観保全への意識向上
- ・景観の向上により、ドライバーがゆっくり走行し安全性が向上
- ・子ども達への環境教育の場の提供 ・熊出没頻度の減少



② 活力ある地域づくり

1. ～羊蹄山ビューポイントの眺望を守り・活かす環境保全活動～
「みらいの森」育樹プロジェクト (支笏洞爺ニセコルート)
2. ルート内道の駅スタンプラリー (東オホーツクシーニックバイウェイ)
3. 道の駅と連携した情報提供の実施 (釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)
4. シーニックマルシェの開催 (層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ)
5. ～これからの空知を考える～地域創生フォーラム (空知シーニックバイウェイ・体感未来道)
6. 地域情報発信・ドライブマップの作成 (知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイ)

ベストシーニックバイウェイプロジェクト2019

活動名称	～羊蹄山ビューポイントの眺望を守り・活かす環境保全活動～ 「みらいの森」育樹プロジェクト	エントリー部門	活力ある地域づくり
-------------	---	----------------	------------------

ルート名称	支笏洞爺ニセコルート
--------------	-------------------

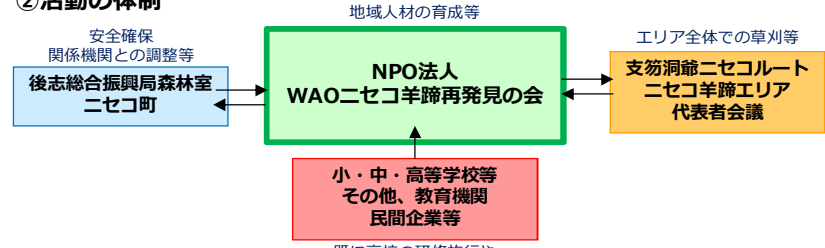
①活動概要 (目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標：
羊蹄山のビューポイントとして、2018年9月29日(土)に「北海道150年記念 みらいの森育樹会」に合わせて活動を開始した「みらいの森(ニセコ町)」。
- 活動内容：①シーニックビューポイントとしての**周辺環境の整備**(育樹活動・ウッドチップ敷設・デッキ設置等)
②同じく、シーニックビューポイントとしての各種活動時の**利活用**(集客イベント等での利用)
③小・中・高等学校等とした**育樹活動の実施**(修学旅行・研修旅行等)
④地元住民や地域活動団体を対象とした育樹会等を通じた**地域の人材育成**
- 活動期間：平成30年度～令和2年度 (※継続展開中)
・実施場所：みらいの森(ニセコ町)



2018年9月に設置したビューポイント案内看板

②活動の体制



「みらいの森 育樹会」(2018年9月29日)



「日本風景街道大学 ニセコ羊蹄キャンパス」エクスカーション(2019年9月21日)

③PRポイント

- 【総意工夫した点や苦労した点】
- ・北海道の育苗事業を終えた**道有林をビューポイントとして活用**
 - ・道有林の**森林ボランティア活動**等に対する積極的な**フィールド提供**
 - ・各種**シーニック地域活動での活用**により「みらいの森」PRに繋がっている
 - ・教育機関や民間企業等、幅広く多くの方に**活動に参加してもらう気運醸成**
- 【活動による効果】
- ・地域住民と来訪者による育樹活動による森林面積の拡大【環境保全効果】
 - ・地域住民と来訪者による交流機会の増加【外向きの効果】
 - ・来訪者に対するビューポイント提供に対する高評価【 " 】21
 - ・地域資源および地域人材の活性化【内向きの効果】



地域活動団体や教育機関との連携による「みらいの森 育樹活動」※継続的に展開中

①活動概要
 ルート内の回遊性向上、ルートの認知度向上の目的から、ルート内7道の駅を対象としたスタンプラリーを6月1日～10月30日の期間で実施しました。景品(清涼飲料水1箱×2名、7道の駅特産品詰め合わせ×2名、7道の駅それぞれの特産品×14名)

②活動の体制
 ●活動団体、人数、体制図等
 【主催】：東オホーツクシーニックバイウエイ連携会議
 【後援】：網走開発建設部、コココーラ(株)網走営業所
 【協力】：ルート内7道の駅

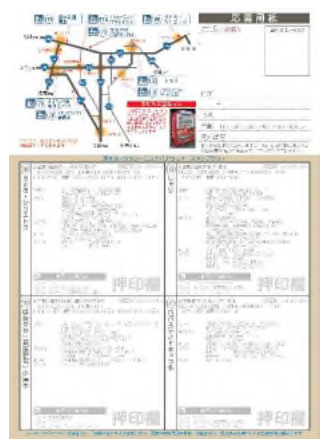
③PRポイント
 ●創意工夫した点
 包括連携企業であるココ・コーラ(株)と連携し、景品等の一部を確保できました。

●苦勞した点
 予算的制約等から、スタンプラリー帳にはシーニックの情報はルート名、ロゴ、簡易地図の記載が限界でした。今後はルートの認知度向上のため、ルートで推挙している観光資源情報等も加えていきたいと考えています。

●活動による効果
 スタンプ帳10,000枚を作成・配布し、当選者枠が18人でありましたが1,100人の応募をいただき、アンケート(1,100人)結果からは「今まで知らなかった地域情報を得ることができた」、「集めるのに1度よい数」等の好評の感触を得ることが出来、ルート内回遊性の向上に寄与できたと考えています。



表面



裏面

①活動の概要(目的・目標、具体的な取り組み等)
 ●活動目的 ①地域活性化、②交流人口増加、③道の駅の魅力アップ、④シーニックバイウエイの知名度向上
 ●活動内容 ①地域活性化: 掲示板、情報スペースでの情報提供で地域施設へ観光客を誘導
 ②交流人口増加: 情報掲示板の連携(摩周温泉⇔開陽台)で観光客の周遊誘発
 ③道の駅の魅力アップ: 観光情報・地域情報収集の拠点化(コアな情報を提供)
 ④シーニックバイウエイの知名度向上: 情報スペースで活動内容の情報提供・PR
 ●活動場所 道の駅「摩周温泉」を活動拠点として釧路・根室管内全域
 ●活動期間 右表参照(H26年度の協働調査を皮切りに、改善、展開を意識し継続中)

②活動の体制
 道の駅「摩周温泉」(弟子屈町役場) と 釧路湿原・阿寒・摩周SBW(道東ブロック会議・ルート間連携) の連携体制を示す図。情報提供スペース、調査場所の提供・協力、結果共有・SBWスペース相談などが中心。

③PRポイント(◎PRポイント、◆工夫した点)
 ◎道の駅内のシーニックバイウエイ専用情報提供スペースは初！?
 ◎道東ブロック会議のルート間連携のアイデアが情報スペースの原点
 ◎手づくりの愛着感: 掲示板、情報ラックは全てルートメンバーの手づくり
 ◆地域と道の駅とシーニックの3者がWin-Winになるように工夫して活動:
 道の駅で完結せず、町内や周辺市町村へ観光客が向かうように工夫
 ◆道の駅、地域の施設との信頼関係を構築しながら、徐々に発展・展開:
 試行・分析、結果共有を繰り返し、連携しながら段階的に活動を拡大
 ◆試行結果は定量的に把握してわかりやすくフィードバック: 以下に例示
 ・R1夏期は、カード配布枚数5362枚に対し、クーポン利用者数259名。
 掲示板で情報を収集し、町内の施設を訪問する観光客が年々増加!
 ・弟子屈⇔中標津で町界を越えたクーポン利用者も18名! 需要あり!
 ・情報スペース設置でルート作成の観光マップ配布枚数が2.7倍増加!

年度	月	活動内容	備考
H26	7	ルートと釧路開建が協働で調査を開始 ◆道の駅の駐車場利用方法の問題が起因	問題抽出 ニーズ把握
H28	8	てしかが情報掲示板開設(道の駅摩周温泉) ◆情報カード配布で町内施設への誘導	道の駅との 連携開始
H29	7	情報板利用者の利用状況追跡調査を開始 ◆クーポン利用状況から誘導状況の評価	カード利用 の有無確認
	9	中標津情報掲示板開設(開陽台展望館) ◆兄弟掲示板として同様の取組を開始	隣接地域の ニーズ把握
	10	道東ブロック各ルートのパンフ配布の試行 ◆道の駅「摩周温泉」で試行 →好評	ブロック会議 結果の試行
H30	9	シーニック情報提供スペース開設 ◆道の駅「摩周温泉」にSBW専用コーナー	道の駅との 良好な関係
	10	情報提供スペースでの情報提供を本格化 ◆スペース設置による効果を把握 →好評	道の駅による 活動補助
R01	7	両情報掲示板の連携による情報提供開始 ◆相互の施設を紹介し交流人口を増大	クーポンの 評価も継続
	12	情報提供スペース配布用の専用媒体準備 ◆町内散策資料、SBW活動内容資料作成	R2観光期 から配布



22

◆シーニックバイウエイの情報提供スペース
 弟子屈町のスペース(ラックはSBWより寄贈)



魅力的なルート情報提供

シーニックバイウエイ
 道の駅摩周温泉に常設スペース

活動名称 シーニックマルシェの開催 エントリー部門 活力ある地域づくり

ルート名称 層雲峡・オホーツクシーニックバイウエイ

①活動概要

- 活動の目的・目標：
景観の良い箇所、もしくはルート内で集客の多いイベント等でルート内の農水産物等の特産品販売及びルート活動のPR等を行うことで、域内外の観光客の域内周遊を促進し、シーニック活動や道路の重要性等の理解を促します。
- 活動内容：
上川町北の森ガーデン、遠軽町太陽の丘公園、滝上町のイベント、札幌地下歩行空間等において、ルート内の農水産物等の特産品販売及びルート活動のPRパネル展示による『シーニック・マルシェ』を開催しています。
- 活動期間：
平成25年度～

②活動の体制

- 企画・運営：層雲峡・オホーツクシーニックバイウエイ

③PRポイント

- 創意工夫した点
利用促進のため、チラシやHPを活用してルート内外へ、取り組みと設置場所・時期の周知を行いました。
- 苦勞した点
実施時期は他のイベントが多く、出店者や運営側も幅広くかかわっている場合が多いため、出店者やスタッフの確保に苦慮しました。
- 活動による効果
ルート内の中心的な活動の一つとなりました。マルシェの実施により、ルート内でのシーニックの認知度向上、農水商工業者の新たな販売機会を創出することができました。



シーニックマルシェ(遠軽町太陽の丘公園)



シーニックマルシェ(札幌地下歩行空間)

活動名称 ～これからの空知を考える～ 地域創生フォーラム エントリー部門 活力ある地域づくり

ルート名称 空知シーニックバイウエイ-体感未来道-

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標：
2003年より空知地方の経済活性化を図るため、地域の元気を取り戻すイベントとして講演会やセミナーを開催。2016年からの4年間は空知管内におけるシーニックバイウエイをテーマとして、地域・行政・団体・町内会等が連携した「地域資源を活かした活力ある地域づくり・魅力ある観光空間づくり」「子どもたちの未来」「これからの空知」に向けた今後の活動と可能性を模索するフォーラムを企画・開催。
- 活動内容：基調講演+パネルディスカッション
- 活動期間：平成28年度～令和元年度(2016-2019)

②活動の体制

主催：(一社)空知建設業協会
 後援：空知総合振興局/札幌開発建設部/空知地方総合開発期成会/岩見沢商工会議所/(一社)北海道建設業協会/(一社)シーニックバイウエイ支援センター

協賛：(株)北海道新聞社/(株)北海道建設新聞社/(株)北海道通信社/(株)空知新聞社

③PRポイント

- 【総意工夫した点や苦勞した点】
・広域的な地域活性化イベントとして、様々な角度から地域の再生・創生に向けた議論を継続的に実施している。
- 【活動による効果】
・地域の景観資源の再認識・掘り起こし。
・空知シーニックバイウエイの始動を、多分野から発信し、地域賛同者を増やした。
・地域・行政・団体から、地域づくり、地域の活性化への協力が得られ、一体となって活動が行える。



2019
【基調講演】
 シーニックバイウエイ支援センターボランティアスタッフ、前国土交通省北海道局長 和泉晶裕氏
【座談会】「始動！空知シーニックバイウエイ！」
 ・和泉晶裕氏
 ・特定非営利活動法人ほっかいどう学推進フォーラム理事長 新保元康氏
 ・空知シーニックバイウエイ副代表・(有)山崎ワイナリー栽培担当 山崎太地氏
 (司会) 榊建新総合研究所 代表取締役社長 荒木正芳氏



2016
【基調講演】
 (社)日本ソムリエ協会認定ソムリエ 池田卓矢氏
【特別講演】
 コンセプト株式会社 代表取締役 佐藤雄一氏

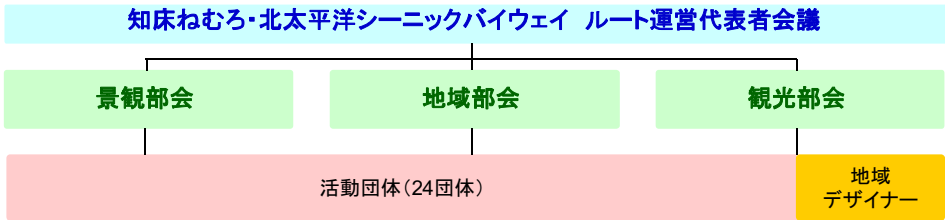
2017
【基調講演】
 『農業による地域づくり』
 慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任教授、北海道大学大学院農学研究員客員教授 林美香子氏
【シーニックバイウエイ座談会】
 『空知づくり、地域づくり、人づくり』
 ・林美香子氏
 ・NPO法人炭鉱の記憶推進事業団 副理事長 植村真美氏
 ・NPO法人なよろ観光まちづくり協会 事務局長 畑中寛是氏
 ・有限会社山崎ワイナリー 山崎太地氏
 (コーディネーター)
 ・株式会社北海道建設新聞社 代表取締役社長 荒木正芳氏

2018
【特別講演】
 『ピンチはチャンス？ 決してあきらめない。ゼロだからこそ可能性はある。』
 鈴木貴之氏(そらち応援大使)
 (株)クリエイティブオフィスキュー
【パネルディスカッション】
 『これからの空知を考える』
 ・そらち応援大使 (株)クリエイティブオフィスキュー 鈴木貴之氏
 ・北海道空知総合振興局長 佐々木誠也氏
 ・空知シーニックバイウエイ代表 工藤彦彦氏
 ・岩見沢生活情報誌 『これと』編集長 栗林千奈美氏
 (コーディネーター)
 ・(株)北海道建設新聞社代表取締役社長 荒木正芳氏

①活動の概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動目的 ①地域活性化、②交流人口増加、③シーニックバイウェイの知名度向上
- 活動内容 ①地域活性化：ドライブマップによる情報発信を行い、地域へ観光客を誘導
②交流人口増加：おすすめのドライブコースの設定を行い、観光客の周遊誘発
③シーニックバイウェイの知名度向上：知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイのPR
- 活動場所 根室管内全域
- 活動期間 R1年度より

②活動の体制



③PRポイント（◎PRポイント、◆工夫した点）

- ◎地域資源を整理し、根室地域の特色を生かした6つのドライブコースを設定：野生動植物に触れる、最果てを巡る、絶景を走る、自然と美食を味わう、フットパスを歩く、交通・鉄道遺産を巡る
- ◆ロゴマークの検討：マップには親しみやすいように各コースを表現するロゴマークの検討を行い、作成、記載した。
- ◆地域を知る人材活用：マップ、ロゴマーク等の検討においては、地域の特色を示すことから、地域のことを良く知る地元のデザイナーを起用した。
- ◎ロゴは一筆書き：繋がる道をイメージして、一筆書きで作成した。
- ・R1年度は、デザイン検討、印刷までを実施し、次年度配布。
- ・作成したマップは、記載内容等をブラッシュアップを行い、定期的に更新を予定する。



③ 魅力ある観光空間づくり



1. きた北海道エコ・モビリティの推進 R3プロモーション動画の作成
(天塩川シーニックバイウェイ/宗谷シーニックバイウェイ)
2. インフラを活用した新しいツーリズムの創出 (萌える天北オロロンルート)
3. 写真を活用した地域の魅力発信事業 (十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート)
4. 情報ボックス(BOX)事業 (十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間)
5. どうなんサイクルツーリズム推進事業 (どうなん・追分シーニックバイウェイルート)
6. “道の駅”からはじまる“空知サイクルツーリズム”
(空知シーニックバイウェイ-体感未来道-)

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●目的・目標/体験型観光と個人旅行のニーズを含め、一次交通の衰退や二次交通の脆弱さを逆にとり、地域にとってプラスとして、地域資源に触れ・遊び・移動そのものが観光となる新しい旅のスタイル『きた北海道エコ・モビリティ』を広域で連携・推進
⇒スロウな旅が地域への滞在時間の長期化・経済効果・周遊性向上に繋がる

●活動内容/ **R3プロモーション動画の作成**

道（Road=自転車・歩く）と川（River=カヌー）と鉄道（Rail=JR宗谷本線）が並行する地域性を活かして**3つのR**を繋ぎ、美しい景観を見て＆自然に触れて遊び＆美味しいものを味わいながら日本のてっぺんを目指す旅を推奨するため、過年度までにはアクティビティと食や観光を繋げるコース設定、コンテンツの発掘・検討を進め、それらを組合せた「R3モニターツアー」を昨年度実施した。ツアー参加者からの満足度や今後への期待も多く、意見等も参考に、**R3プロモーション用のイメージ動画**を作成した。

★ターゲット：20～30代の女性★
⇒食と観光+遊べるプチアクティブな女子旅

●活動期間/2019年9月～2020年3月
<2017年度から「きた北海道エコ・モビリティ」の取組みを継続実施>
●活動範囲/きた北海道エリア（天塩川シーニックバイウェイ、宗谷シーニックバイウェイ、その他関係する近隣市町村）



▲撮影の様子

▼投稿されたInstagramでは、主に動画での公開。

▼作成した動画画面。旭川空港へ到着してからバスで移動、手荷物を預け、自転車やカヌーで移動しながら、御当地食を堪能しながら宗谷岬へ。映像は約5分。

②活動の体制

実施主体 **きた北海道エコ・モビリティ**
天塩川シーニックバイウェイ [事務局]
宗谷シーニックバイウェイ
シーニックバイウェイ支援センター

協力・連携 常に密に情報共有
北海道エコ・モビリティ研究会/北海道のサイクル、ツーリズム推進に向けた検討委員会/旭川開発建設部/稚内開発建設部/JR北海道旭川支社/その他(団体/自治体/企業等)

③PRポイント

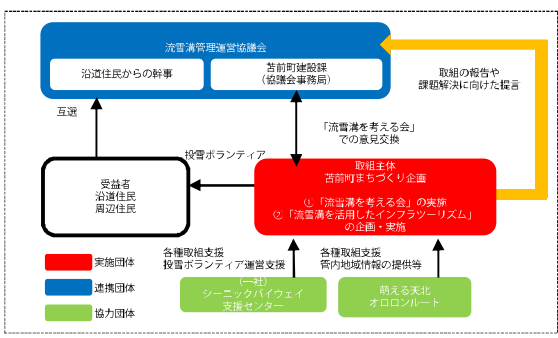
- 【総意工夫した点や苦労した点】
- ・紅葉シーズンの美しい自然風景の時期を狙った。天候にも恵まれ、よい撮影ができた。
 - ・実際のJR便に合わせているため、撮影タイミングなどに苦労した。
 - ・Instagramのフォロワー数が多いモデル（2名）を起用し、それぞれのInstagramで撮影の様子や地域の情報をアップしてもらい、PR効果を促した。
- 【活動による効果】
- ・Instagramに、movieや写真画像、地名や特産品等を#でタグ付による投稿が10回以上があった。インスタグラムなどを中心に述べ約1000件ものコメントやいいね数があり、広く周知に繋がった。
- 【今後の展開】
- ・動画を有効的に活用し、広く周知するための手法を検討したい。(例)道央圏・首都圏等へのPR、外国語版動画の作成)
 - ・JR宗谷本線の存続等も踏まえて、今後も沿線自治体と協議しながら検討していきたい。
 - ・北海道・道北の魅力でもある“雪”に触れるWinterシーズンのPRにも、力を入れていきたい。
 - ・新型コロナウイルスの影響による旅行等の自粛などを踏まえ、PR手法等を検討したい。

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標/留萌管内にある苦前町古丹別地区流雪溝は、高齢過疎化や空き家の増加などから流雪溝の利用者が減少し、その機能が供用当時と比べると十分に発揮されていない状況です。このような状況を受け、苦前町まちづくり企画(ルート活動団体)では、流雪溝のより良い在り方について官民で議論を重ねてきました。また、「投雪ボランティアツアー」を試行的に実施し、地域外からの雪処理の担い手の確保に向けた取り組みも行ってきました。これらの活動を基盤として、流雪溝というインフラを「街の冬の暮らしを知ってもらうツール」として観光コンテンツとして転用した「**インフラツーリズム**」を試行的に実施しました。

●活動内容：平成27～30年度 ①流雪溝の課題解決に向けた官民による意見交換会の実施（「流雪溝を考える会」）
令和元年度 ②新しい雪処理の担い手を受け入れるための「投雪ボランティアツアー」の試行的実施
③「インフラツーリズム」に関する地域勉強会の開催、④流雪溝を活用したインフラツーリズムの実践

②活動の体制



③「インフラツーリズム」に関する地域勉強会の開催

勉強会の話題提供者：篠原 靖 氏(跡見学園女子大学准教授)
実施日：令和元年12月26日
主催：苦前町まちづくり企画
協力：萌える天北オロロンルート

④流雪溝を活用したインフラツーリズムの実践（「苦前暮らし体験ツアー～冬編」）

実施日：令和2年2月15日～16日
旅行企画・実施：株式会社コササル
企画：苦前町まちづくり企画
協力：萌える天北オロロンルート
プログラム：流雪溝関連施設の見学、地域住民との投雪作業、漁港見学等

③PRポイント

- 機能が十全に発揮されていない流雪溝について官民で意見交換を重ねながら、流雪溝利用を再考する機会を蓄積
- 流雪溝自体を観光資源として活用する「インフラツーリズム」の概念を援用
- 「インフラツーリズム」の概念を取り入れることで、流雪溝を中心に地域の食資源や人材を繋ぎ合わせた「苦前暮らし体験ツアー」へと昇華させ、関係人口の創出を促すプログラムを開発
- 留萌ダム等のインフラツーリズムを企画する留萌市内の旅行会社とタイアップすることで、より地域の細やかな情報と参加者にとって「学び」のあるツアーを造成

①活動概要

●活動の目的・目標

ルート内の美しい景観のPRと、撮影場所への訪問動機に繋げることを目的に、フォトコンテストの入賞作品を活用した「**フォトコンテスト巡回パネル展示**」を実施。



▲開催告知ポスター

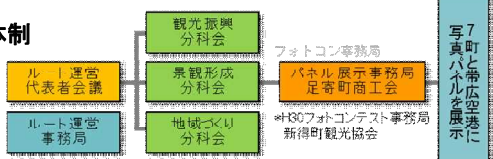
●活動内容

展示写真は、前年度に開催した「トカチさんくフォトコンテスト」の入賞作品をフォトフレームに入れて掲示。十勝平野・山麓ルートに訪れた人が撮影した「**地域の新たな魅力**」等を当エリア内の7町で**巡回して発信**すると共に、フォトコンテストによるルート内の交流人口増加を目標とした取組み。(今年度もInstagramフォトコンを継続実施予定)

<巡回展示スケジュール>

- ◆展示会場：ルート内7町各施設および、とちか帯広空港
- ◆展示期間：2019年7月24日～12月30日(約半年の間で巡回)
- ※各施設1週間展示
- ◆展示内容：フォトコンテスト入選作品20点

②活動の体制



巡回展の新聞記事(十勝毎日新聞) 2019/7/30

入賞作品を展示

トカチさんくフォトコンテスト 2018年の実施概要

- 募集期間：2018年8月1日～2019年2月20日
- 募集方法：道の駅、観光施設へチラシ配布、ホームページ、SNSで周知案内
- 応募形式：写真プリント、インスタグラムでの応募
- 応募総数：インスタグラム156件、メール・郵便等66件(計222件応募) 最終的に約300件に。 ※フォトコンテストは2回目の実施。

PRポイント

●苦勞した点

- ・約半年の期間で7町および帯広空港の展示スケジュールを設定するため、各町の開催日や巡回する順番、展示施設の予約、搬入出に係る人員等、全体のスケジュール調整・管理等に時間を要した。
- ・フォトコンテスト応募の写真は、スマホ撮影とカメラ撮影などが混在していたため、**パネル掲示用の写真サイズに調整**を行う等、細かな調整が必要であった。

●創意工夫した点

- ・パネル展示と運搬は、各ルートで行うため、スムーズに次の展示に移行できるよう、搬入出に1週間の期間を設けた。当エリアは広域であるため、**移動時間も含めて、余裕のあるスケジュールを設定**して担当者の負担軽減に努めた。
- ・開発局とも連携し、道内外から人が集まる「帯広空港」や道の駅での展示も行った。

●実施の効果と今後の展望

- ・巡回展示を行うことで、地域住民が地域の魅力を再認識し、**地域への愛着や誇り**を増進することができた。
- ・ルート内7町で巡回することによって、**ルート内での協力体制や連携意識**が芽生えた。
- ・募集締め切り後も本ハッシュタグによる写真投稿が続き、ルートの魅力発信に効果があった。
- ・SNSで募集すると気軽に応募してもらえることが分かったので、**取得したアカウントを活用して、今年度もフォトコンの開催や巡回パネル展示を継続する予定**。

▼巡回パネル展示スケジュール

町村名	展示日	場所
①陸奥町	7/24～8/6	コミュニティプラザからーと
②帯広市	8/10～8/20	とちか帯広空港 2F 出発ロビー前
③足寄町	9/3～9/16	道の駅あしよる観河ホール21
④上士幌町	9/24～10/7	上士幌町生涯学習センターわかっか
⑤土埜町	10/18～10/28	土埜町総合研修センター
⑥鹿追町	11/5～11/18	道の駅しおかい緑 ジオパーク情報館
⑦清水町	11/26～11/29	ハーモニープラザ
⑧新得町	12/11～12/30	新得町公民館ロビー



①活動概要

●活動の目的・目標

ルート内の観光施設や観光拠点に情報ボックス(パンフレット設置ボックス)を設置。ルートマップや各施設のパンフレットを配送し、**事業者間で相互PR**を実施、観光客に**各施設の周遊を促す**ことを目的としている。

●活動内容【実施期間・活動期間】

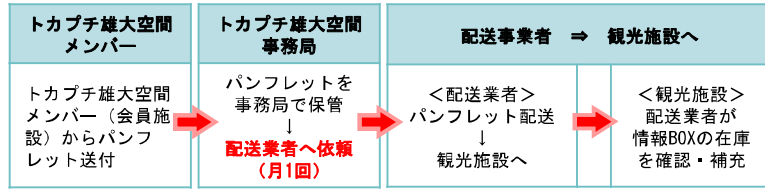
毎年4月～9月の月末に、トカプチ雄大空間メンバー(会員)施設から集めた**パンフレットを配送委託(1回/月、6回/年)**。平成24年度から活動をはじめ、**今年で8年目**となり、当初の7施設から**現在は17施設に増え、設置と配送**を行っている。

情報BOX設置場所一覧

No.	設置場所	市町名
1	紫竹ガーデン	帯広市
2	真駒園	帯広市
3	帯広競馬場	帯広市
4	十勝バス	帯広市
5	八千代牧場	帯広市
6	とちかわら産直市場	帯広市
7	北の原台	帯広市
8	帯広観光ステーション	帯広市
9	帯広観光コンベンション協会	帯広市
10	十勝山麓観光ガイドセンター	足寄町
11	新くまがらみ	足寄町
12	十勝ヒルズ	足寄町
13	緑楽KAGURA	芽室町
14	めむろ新原山荘	芽室町
15	知多名産肉の店 すず夏	芽室町
16	帯田アウトレット	帯田町
17	帯田アウトレット	帯田町

縦180cm・横90cm 奥行45cm

③ パンフレット設置の流れ



★SBW事業の情報発信、各団体のPR、施設間の相互送客効果を期待!

③PRポイント

●工夫した点や苦勞した点

- ・情報ボックスの形状は**各施設に馴染むようなデザイン**や材質(木製)とした。
- ・パンフレットの在庫確認や補充ができる**配送システムを構築**したことにより、**パンフレットの在庫不足が解消**された。
- ・効果的な配置の検討 ⇒ 部会メンバーで、情報ボックスの設置状況等、現地確認を行い、目に留まりやすい**棚割の検討**をし、**公平に割り当てるため年1回の入替**を実施。
- ・情報発信強化のため、当部会別事業のトカプチマップ(平成28年度から発行)へ毎年情報BOXの設置情報を掲載している。



▲情報BOX設置の様子

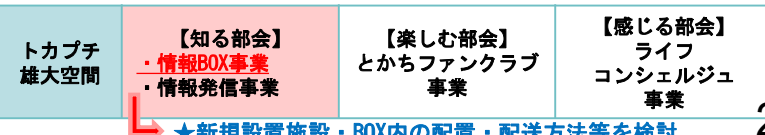
●活動の効果

- ・トカプチ雄大空間メンバーの施設間でお客を送り合うことが可能なことから、**お客様だけではなくルートメンバーにとっても重要な広報ツールとして活用**されている。
- ・主にルート内の観光施設に設置。道の駅等の情報発信施設が近くにない地域にも、設置していることから**お客様からの需要も高い**。



▼トカプチ雄大空間ルートマップ

②活動の体制



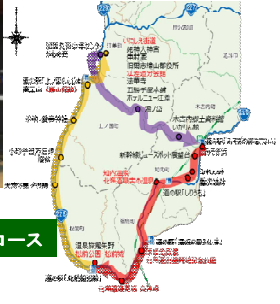
★新規設置施設・BOX内の配置・配送方法等を検討

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標： ルートの最大の特徴、道南独特の歴史・文化を楽しみながらサイクリングを行うツーリズムを推進。交通過疎地帯の新たな道路活用として、観光・健康・エコロジーに着目したサイクルツーリズムの取組であり、国内外に向けて交流人口の拡大・周遊の向上を通じ地域経済の活性化を図ることを主な目的とする。
- 活動内容： 2017年 試走ルートでコースを作成。
2018年 観光主要箇所へのサイクルラック等の設備整備、モニターツアー等の開催等。
2019年 サイクリングガイド養成、台湾から招聘ツアー、商品化されたツアーのエリアガイド等の支援・協力他移動サポートとして活動団体交通機関による全国初自転車搭載バスやフェリーの活用等の他、広報活動として「チャリ旅みなみ北海道」のHP・SNS発信やパンフレット作成、プロモーション活動を行った。
- 活動期間： 2017年度～2019年度（継続中）



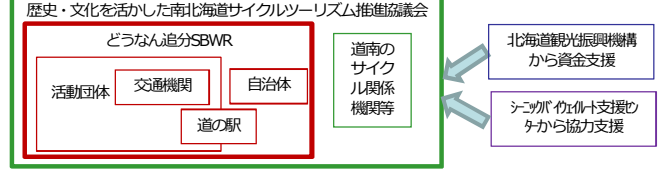
2019年台湾招聘ツアー開催



推奨基本コース

②活動の体制

●活動団体、人数、体制図等



2019年ガイド養成セミナー



コースパンフレット更新 日本語・英語版



整備した自転車ラック等使用



函館バス駅による自転車搭載バスの運行

③PRポイント

【苦勞した点や工夫した点】

2018年は胆振東部地震、2019年はシーズンが4月から10月と限られている中で8月に資金目処が立ったため前半は縮小する等、シーズンに集中するイベントを効率よく実施、支援した。多様な協力により台湾の有力者を招聘し、ツアーを開催に至ったり、協議会の交通機関等の企業協力・支援を得て、地域一体となってサイクルツーリズムを推進してきた。

【活動の成果】

観光ルートとしては低認知度のコースエリアではあるが、ツアー参加者のアンケートによる満足度は高く、国内外のリピーター希望意向が多数見受けられた。2018年度設置したサイクルラック等の使用状況についても利用率が増加傾向にあった。サイクルガイド認定者によるスキルのあるコースガイドと地域のおもてなしガイドとしてルート活動団体・道の駅・自治体の支援、移動サポートや広報として交通機関・観光関係・メディア等一般企業による支援・協力体制も高まり、誘客の成果へと繋がった。これらを地域の周遊観光の拡大に、そして産業経済効果を導き出す、次の成果へと繋げていきたい。

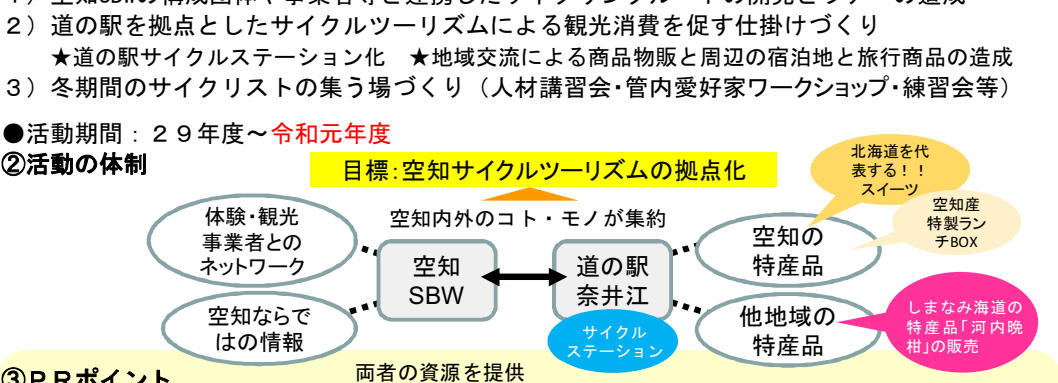


JAL HPプロモーション 18-19 5~11月

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標： 道都札幌、旭川・富良野の観光地に挟まれた空知は、通過交通が多く、観光地としての発信や着地の受け入れが弱いという課題があります。一方、サイクルツーリズムとしては札幌からの日帰り圏内でサイクリストの利用が多い地域です。そこで、空知シーニックバイウェイでは、グリーンツーリズムやワインツーリズム、ヘリテージツーリズムといった空知らしい体験観光を自転車移動を使って楽しめるコト・観光消費が生まれ地域が潤うコトづくりとして2018年度に“道の駅”からはじまる“空知サイクルツーリズム”の取組をスタート。2019年度は、奈井江道の駅から「石狩川流域サイクリングコース」と「空知の観光拠点」を巡るサイクリングコースを作り、空知SBWのメンバーによるモニタリングツアーを実施しました。将来的には歩行、自転車、自動車での空知管内での移動による観光受入整備、案内情報発信の充実化、受け入れ観光施設と道の駅、道路管理者との事業連携につなげていきます。
- 活動内容：
 - 1) 空知SBWの構成団体や事業者等と連携したサイクリングルートの開発とツアーの造成
 - 2) 道の駅を拠点としたサイクルツーリズムによる観光消費を促す仕掛けづくり
 - ★道の駅サイクルステーション化
 - ★地域交流による商品物販と周辺の宿泊地と旅行商品の造成
 - 3) 冬期間のサイクリストの集う場づくり（人材講習会・管内愛好家ワークショップ・練習会等）
- 活動期間： 29年度～令和元年度

②活動の体制



空知 サイクルステーション 第1号 道の駅ハウスルビ奈井江



日本一の直線道路「国道12号」の中間にある“道の駅ハウスルビ奈井江”を空知サイクルツーリズムの拠点（安全安心なサイクリング環境の提供・歴史、風土、農などといった空知ならではの周遊を楽しめるサイクリング（ツアー）発着地・サイクリストが集う場・地域特産品を買い求めやすい等）を目指す第1号のサイクルステーションとして取組を開始



▲奈井江道の駅発着モニタリングツアー

▲しまなみ海道の特産品「河内晩柑」（道の駅奈井江でゴールデンウィークに販売）

③PRポイント

- ・道の駅奈井江にて、サイクルツーリズム拠点化を担当する職員の雇用が生まれた（㈱アーチ・ヒーロー×NPO法人日本一直線道まちづくり研究会との空知SBW活動団体同士の事業連携）
- ・道の駅にサイクルツーリズムに係る機能を集約させることで、地域内外の情報や資源が消費活動として落とし込める。